

東亜建設工業の仕事。それは、「つくる」こと。

そして、皆様の暮らしを「ささえる」こと。

さらに、環境を「ととのえる」こと。

人と自然の調和をめざす私たちの技術は様々なカタチで、
いつも暮らしの中に活かされています。



Yes! Harmony

東亜建設工業

〒163-1031 東京都新宿区西新宿3-7-1
<http://www.toa-const.co.jp/>

波となぎさ

Wave & Beach



表紙写真／

「島巡り観光船」因幡繁之（「豊かなウォーターフロントフォトコンテスト2015」最優秀賞 国土交通大臣賞受賞作品）詳細は本文8ページ

C O N T E N T S

特集1 国土交通省港湾局 海岸・防災関係の平成28年度 予算案・税制改正案について(海岸事業)

02 国土交通省港湾局 海岸・防災関係の平成28年度予算案・税制改正案について(海岸事業)

国土交通省 港湾局 海岸・防災課 津波対策企画調整官 内藤 孝
沿岸域管理係長 中村 淳一

特集2 平成27年災害復旧事業の状況について

04 平成27年災害復旧事業の状況について

海岸・防災課 災害査定官 西田 光昭

特集3 平成28年度港湾関係災害復旧事業予算(案)について

06 平成28年度港湾関係災害復旧事業予算(案)について

国土交通省 港湾局 海岸・防災課 緊急物資輸送係長 長谷川 恵一

TOPICS

08 豊かなウォーターフロント2015 フォトコンテスト

16 宿港海岸 直轄海岸保全施設整備事業 現地着工

九州地方整備局 鹿児島港湾・空港整備事務所 海岸課長 三好 一喜

20 第19回「海岸シンポジウム」の開催

港湾海岸防災協議会

連載コラム

22 なぎさグルメ紀行 天草市

天草市役所 観光文化部 観光振興課 主事 中田 智弥

26 私と海岸 投げ釣りのカレイ考

愛知県釣りインストラクター連絡機構 顧問 大田 豊明

全国海岸リレー紹介

29 北海道／東北／関東／北陸／中部／近畿／中国／四国／九州／沖縄

データで見る海岸・防災

32 東日本大震災で被災した港湾・海岸の復旧状況

34 各港湾における東日本大震災以降の想定津波の検討状況

36 「港湾の事業継続計画」における全国の検討状況一覧

38 港湾海岸における水門・陸閘等の状況

本文中の執筆者の職名は執筆者からの申し出によっております。
港湾海岸防災協議会の情報を除き、筆者の責任によって執筆された記事は
必ずしも港湾海岸防災協議会の見解ではありません。

国土交通省港湾局 海岸・防災関係の 平成28年度予算案・税制改正案について

国土交通省 港湾局 海岸・防災課
津波対策企画調整官 内藤 孝



沿岸域管理係長
中村 淳一



〈政府予算案〉

平成28年度予算の基本方針

港湾局の海岸・防災関係の平成28年度予算においては、「経済財政運営と改革の基本方針2015」(平成27年6月30日閣議決定)、「日本再興戦略改訂2015」(平成27年6月30日閣議決定)、「平成28年度予算編成の基本方針」(平成27年11月27日閣議決定)を踏まえ、『東日本大震災か

らの復興加速』、『国民の安全・安心の確保』に向けた取組を強力に推進します。

『東日本大震災からの復興加速』

被災地の経済復興を支える物流拠点、エネルギー供給拠点の形成等に資する港湾施設、海岸保全施設の整備を推進する。

『国民の安全・安心の確保』

大規模災害に対する事前防災・減災対策として、港湾・海岸の

ソフト・ハード両面の施策展開により国土強靱化の取組を進める。あわせて、港湾施設及び海岸保全施設の老朽化対策の推進により、安全・安心な暮らしと持続可能な経済社会の基盤を確保する。

概算要求内容

平成28年度海岸事業予算案(港湾局所管分)は一般会計予算9,792百万円(対前年度比1.00)となりました。新しい日本のための優先課題推進枠については、切迫する南海トラフ巨大地震・津波対策のための海岸保全施設整備の推進に向け、南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域内における事業を対象としております。

主要施策

港湾海岸は防護が必要な海岸延長が全体の約3割ですが、防護人口は全体の約6割を占め、背後に物流・産業・市街地機能が高度に集積しているため、切迫性の高い南海トラフ巨大地震・津波や頻発する台風等に備えた防護機能の確保が特に重要です。港湾局では、以上の予算により引き続き津波・高潮等による被害から背後地を防護するため海岸保全施設の整備を推進し、また、



図-1 港湾局所管海岸事業



図-2 堤防の嵩上げ状況(撫養港海岸)



図-3 堤防の嵩上げ状況(津松阪港海岸)

高波に対する防護機能の改善や越波・浸水被害の軽減のため、侵食された砂浜の再生や侵食対策を講じて参ります。

<税制改正案>

港湾局では東日本大震災の教訓を踏まえ、民間企業の津波対策を促進するための税制特例措置を平成23年12月に創設し、この度1度目の延長要望を行い、要望が認められました。本特例措置は、民間企業が臨港地区内で取得・改良を行った防潮堤等の嵩上げや津波避難タワーの設置に対して、固定資産税の減免措置を講じるものです。

臨海部には民間企業が所有する

港湾施設や物流施設が多数存在し、ひとたび津波で被災すると産業や物流など地域経済に甚大な影響を及ぼすおそれがあります。一方で、民間企業にとって津波対策は非収益投資であるとともに、ランニングコストの負担もあることから整備が進みにくいのが現状です。

そのため、津波対策の実施に伴い増加する固定資産税の負担を引き続き減免することで、民間企業の津波対策を促進し、真に津波災害に強い地域づくりの実現に向けて取り組んで参ります。

【特例措置の内容】

市町村が策定した「津波防災地域づくりを総合的に推進するための

計画」に基づき、民間企業が臨港地区内で取得・改良を行った港湾施設等に係る固定資産税の課税標準を以下の通り減免する。

(大臣配分資産又は知事配分資産)

取得後4年間、固定資産の取得価格に $1/2$ を乗じて得た額を課税標準とする。

(その他の資産)

取得後4年間、固定資産の取得価格に $1/2$ を参酌して $1/3$ 以上 $2/3$ 以下の範囲内において市町村の条例で定める割合を乗じて得た額を課税標準とする。



図-4 護岸の嵩上げ前



図-5 護岸の嵩上げ後

平成27年災害復旧事業の状況について

海岸・防災課 災害査定官
西田 光昭



災害起因となった異常気象

災害起因となった異常気象については表-1のとおりであり、中でも7月に上陸した台風11号は西日

本各地で被害が発生し、九州・沖縄で被災の多かった8月の台風15号による被災など、台風による災害が件数ベースで3/4を占める結果となった。

また、年明けにはオホーツク海で急速に発達した低気圧により北海道と東北で被害が発生し、年末には関東を北上した低気圧がオホーツク海で台風並みに発達し、北海道各地で強風と高波におそわれた。その他、台風に伴う豪雨によって河川から流下した土砂や木材等による水域施設(航路・泊地)や港湾海岸の埋塞災害も発生した。

異常気象名	災害日	摘要
冬期風浪	1月7日～8日	
	1月20日	
	3月10日～12日	
台風9号	7月7日～10日	
台風11号	7月16日～18日	
台風16号	8月21日～25日	
台風15号	8月22日～26日	一部局部激甚災害
低気圧	10月1日～3日	
台風21号	10月2日～3日	
台風23号	10月8日～9日	
低気圧	10月25日～26日	
冬期風浪	12月3日～4日	

表-1 災害起因となった異常気象

被災した施設別内訳

被災した施設別内訳は表-2のとおりであり、台風、低気圧等による外郭施設の被災が最も多く、次いで海岸護岸や突堤などの海岸施設となっている。防波堤や海岸護岸など、背後の港湾施設や地域の経済活動等を守る施設の災害が大半を占めている。

災害復旧事業		
水域施設	5件	航路4件、泊地航路1件
外郭施設	29件	防波堤29件
係留施設	7件	浮棧橋7件
臨港交通施設	1件	臨港道路1件
廃棄物埋立護岸	1件	廃棄物埋立護岸1件
海岸施設	16件	堤防3件、護岸13件
災害関連事業		
一般関連	0件	
環境関連	0件	
流木関連	4件	海岸漂着流木4件

表-2 被災した施設別内訳

平成27年災 災害復旧事業箇所

低気圧、台風等により災害査定案件は64件(直轄災5件、補助災59件)が発生(昨年は直轄災5件、補助災61件)。災害復旧事業箇所も東北・関東・中部地方は少ないものの、全国各地にわたっている。

平成27年災 災害復旧事業箇所



主な被災状況



鹿兒島県 片泊港 防波堤【補助災】



山口県 三田尻中関港 浮棧橋【補助災】



北海道 鷺泊港 防波堤【直轄災】



三重県 鷯殿港海岸【流木関連】

平成28年度 港湾関係災害復旧事業予算(案)について

国土交通省 港湾局 海岸・防災課 災害対策室
緊急物資輸送係長 長谷川 恵一



平成28年度予算(案)

①港湾災害復旧事業予算 (東日本大震災以外)

平成28年度の当初予算は、近年の災害による被害の発生状況及び平成26年、平成27年の災害により

被害を受けた施設の復旧状況を踏まえ、前年度の当初予算と同額の総額12.52億円(国費)を要求しています。また、当初予算に不足が生じた場合は、補正予算にて対応しており、平成27年度においては、約24億円を計上しております(表-1)。

なお、表中の「直轄災」とは、地方整備局等が災害復旧事業を、「補助災」及び「災害関連」とは地方公共団体等が実施する災害復旧事業を言います。

(単位：億円)

	平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度 (案)
	当初	補正	当初	補正	当初	補正	当初	補正	
直轄災	8.51	0.00	6.14	0.00	5.91	1.45	5.06	8.03	4.98
補助災	3.93	30.99	6.28	9.60	6.41	13.52	7.34	14.90	7.51
災害関連	0.08	0.28	0.10	1.02	0.20	0.72	0.12	1.36	0.03
合計	12.52	31.27	12.52	10.62	12.52	15.69	12.52	24.29	12.52

表-1 港湾災害復旧事業予算(国費)の推移(東日本大震災除く)

②港湾災害復旧事業予算 (東日本大震災)

東日本大震災における被災施設の復旧は、直轄災については、復旧に期間を要する防波堤を除き、平成26年度末までに復旧を完了していません。大船渡港湾口防波堤は平成28年度、釜石港湾口防波堤及び相馬港

沖防波堤は平成29年度に完了を予定しています。また、補助災及び災害関連についても、平成29年度に完了を予定しています。

これらの復旧目標及び災害復旧の進捗状況を考慮し、平成28年度の当初予算は、約277億円(国費)を要求しています(表-2)。

なお、東日本大震災からの復旧・復興状況については、本誌「データで見る海岸・防災」に掲載されていますので、ご覧下さい。

(単位：億円)

	平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度 (案)
	当初	補正	当初	補正	当初	補正	当初	補正	
直轄災	135.00	0.00	137.00	39.93	122.07	0.00	283.00	0.00	73.00
補助災	30.33	0.00	380.00	0.00	234.50	0.00	245.96	0.00	201.76
災害関連	4.80	0.00	0.00	0.00	2.84	0.00	2.90	0.00	1.75
合計	170.13	0.00	517.00	39.93	359.41	0.00	531.86	0.00	276.51

表-2 東日本大震災における港湾災害復旧事業予算(国費)の推移

港湾関係災害復旧事業費の推移

過去10年間における港湾関係災害復旧事業費の推移を図-1に示

します。図中の平成27年の災害復旧事業費については、一部査定未了の箇所もあり、見込額を計上しております(平成27年12月末時点)。平成23年は、大規模な地震津波によ

る災害復旧事業費が大半を占めており、それ以外は台風や風浪による災害が主な要因となっています。

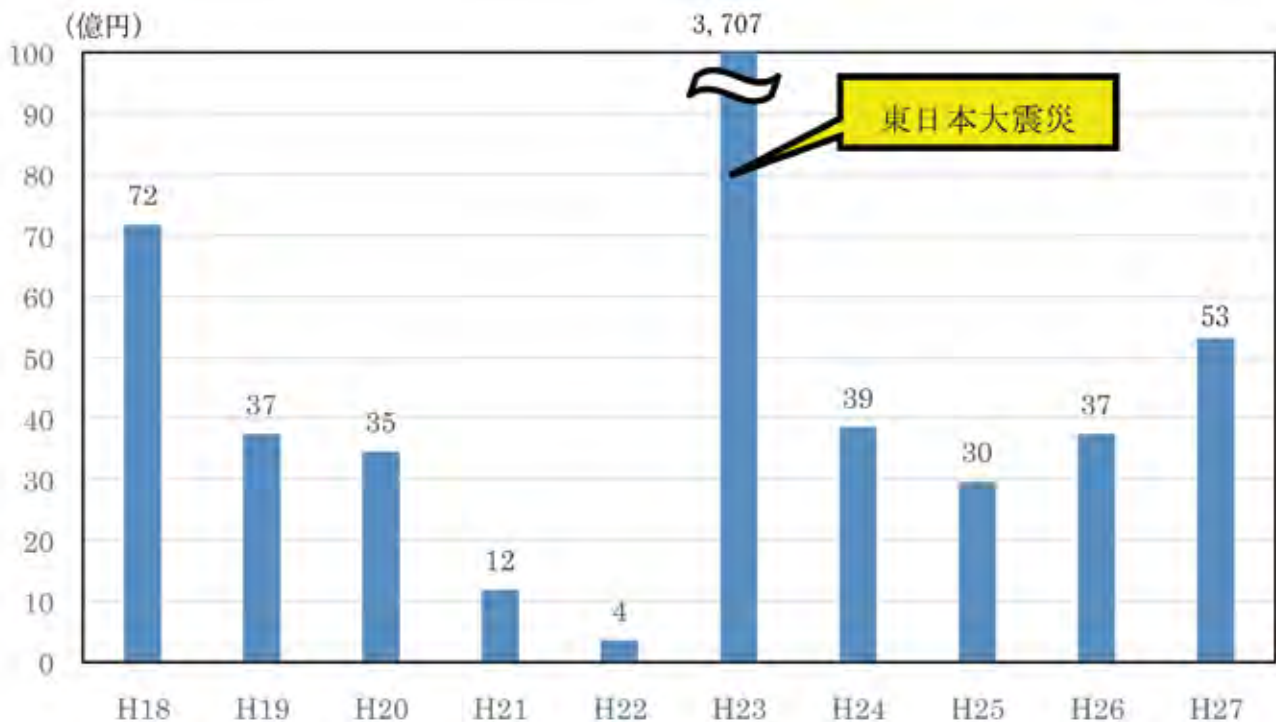


図-1 港湾関係災害復旧事業費の推移

災害復旧事業について

災害復旧事業とは、公共土木施設災害復旧事業費国庫負担法に基づく施設復旧に係る事業です。港湾関係では水域施設、外郭施設、係留施設、廃棄物埋立護岸、臨港交通施

設、港湾広域防災施設及び海岸保全施設が対象となっています。

ただし、被害を受けた港湾関係の施設全てが災害復旧事業の対象となるとは限りません。被災原因、被災規模(被害額)などの要件を満たし、かつ、国による災害査定におい

て決定されたものに対して国庫負担率を乗じた予算が措置されます。なお、災害復旧事業に関する制度の概要については、国土交通省のホームページに掲載されていますので、ご参照下さい。

参考URL

http://www.mlit.go.jp/river/hourei_tsutatsu/bousai/saigai/hukkyuu/

<http://www.mlit.go.jp/common/000055601.pdf>

豊かなウォーターフロント 2015 フォトコンテスト

海とみなと ―― その役割・防災・歴史・観光

本コンテストは、写真を通じて海辺や港の四季折々、津々浦々の姿を表現していただき、ともすれば港と疎遠になりがちな方々に対してその素晴らしさを再認識していただくと共に、ウォーターフロントの景観への意識を高めることを目的としています。

今年で24回目の本コンテストは、「海とみなと―その役割・防災・歴史・観光」というテーマに561点もの応募がありました。いただいた作品に対して平成27年11月5日に厳正なる審査を行った結果、次のとおり素晴らしい入選作品を決定させていただきました。

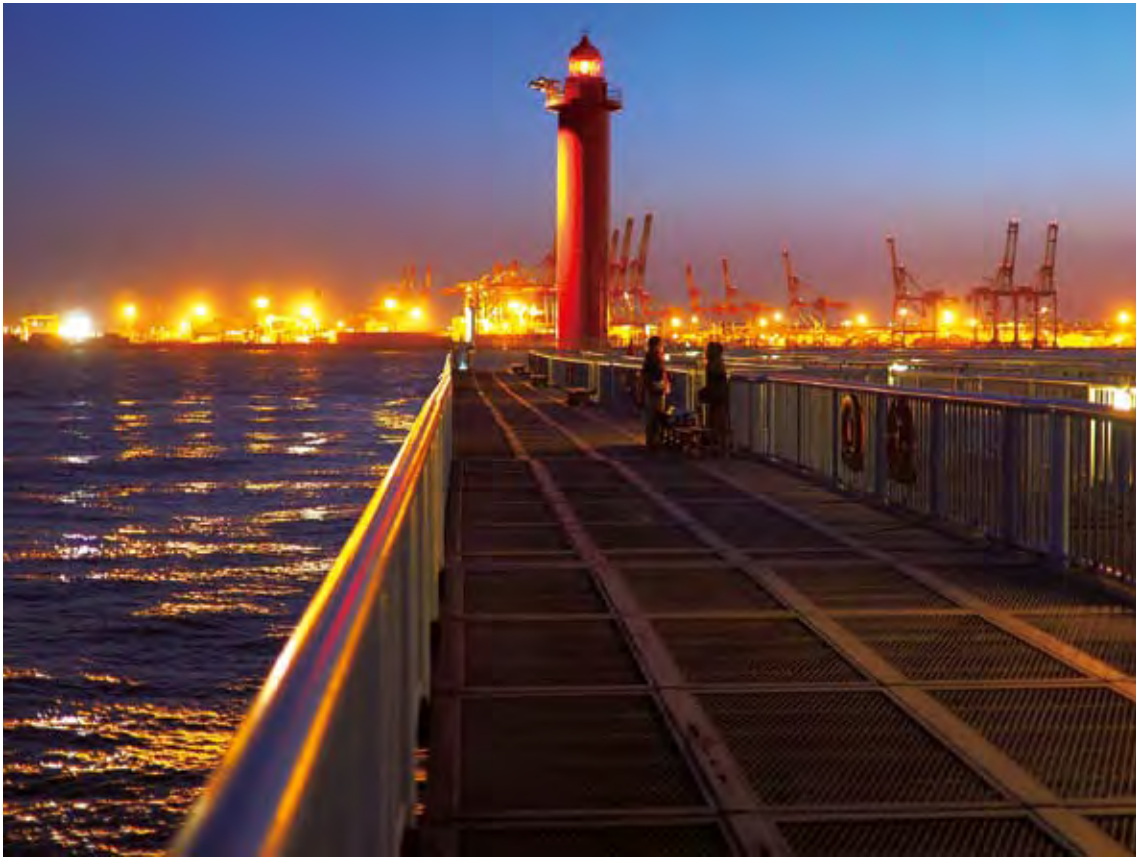
総評 【まえがき】

写真の真価は記録性にあります。時々刻々消滅し絶対取り戻せない時間をキャッチ、固定保存出来る科学成果写真術の活用は、重要な課題と解釈しています。当ウォーターフロントフォトコンテストも、(公社)日本港湾協会、港湾海岸防災協議会、国土交通省奨励の下、はや24回を重ねました。その成果が、港湾、海運、防災等海に関する業務、広報で大いに役立っている模様を、機関誌上で拝見、深く感銘しています。加えて今回は、飛躍的に応募者増加と伺い、関係者の一人として更なる感動と緊張を覚える次第です。(文責:富岡畦草)



最優秀賞 国土交通大臣賞
島巡り観光船
因幡繁之 岩手県宮古市蛸の浜周辺

さて審査は、各部門権威の先生方と熱気溢れる照覧討論の末、この作品が最高賞に選ばれました。着眼から撮影、プリント仕上げ迄万全で、懸崖の老松に胸打たれました。只可惜むらくは、画題が内容から逸れて残念です。慎重にご一考を。



国土交通省港湾局長賞
客船を待つ

小形俊幸 神奈川県横浜市横浜港

横浜港で最大の取扱量を誇る本牧埠頭の夜景です。手前は市民に人気の海釣り施設と灯台で客船はこの沖を通ります。



日本港湾協会会長賞
山田港復興に向けて

有田 勉 岩手県山田町山田港

出掛ける機会が得られず、唯、復旧復興を祈る者にとって、これは朗報です。画面から元気な掛声、歓声が聞こえます。それも壮麗な神輿あってこそでしょう。



港湾海岸防災協議会長賞

都市防災

小澤 宏 神奈川県横浜市横浜港

出初式での救助訓練でしょうか。こうした動態撮影では、連続撮影にセットして、1秒のズレも見逃せない神経を使ってください。“チャンスは二度ない”を忘れずに。

景観部門賞



シルバーウィーク

清水 進 神奈川県横浜市横浜港

無機質機能本位と決まっていた港湾建造物に、板張り芝生庭園まで取入れた横浜港大さん橋の出現は大変な話題になりました。以来観光名所としても大人気、従来のイメージを覆しました。その盛況を、最良のポジションから、最高の作品にまとめられ感心しました。



工場夜景

玉置良宗 三重県四日市市四日市港

四日市港湾工場地帯誕生間近、排気公害問題で大騒ぎしたことが忘れられませんが、これも今では人知で克服、こんな近代夜景をみせてくれることに感慨一入です。



しまなみの岸边

藤原敏明 広島県三原市竜王山

久しく見ない瀬戸内の風景が、こんなに近代都市化したとは驚きです。写真は記録を念頭に、古い写真があれば大切に保存、この現状も刻々変化すると思えますので注目し続けて下さい。

仕事部門賞



筏組み作業

佐藤芳恵 新潟県新潟市新潟西港

ついで苦労さん！と声を掛けなくなる場面です。撮影にも気が疲れたと思います。素人には手の出せない仕事場面の貴重な写真です。カメラにもよりますが、出来ればストロボ発補助的照明にすれば、リアルに人の表情、バックの貨物船の存在が捉えられました。



新春出初式

川上勝正 神奈川県横浜市横浜港大さん橋

今は評判の横浜港の正月行事、出初式での一斉放水は壮観です。街のビルは限りなく高層化し、肥大化する倉庫、船舶の消火救助の大変さが思いやられます。それよりまずは火の用心！



東京湾アクアライン マラソン

菅原譲太郎

千葉県木更津市金田海岸

東京湾横断アクアラインでの開放的なマラソン大会、その熱狂ぶりが見事な写真でよく伝わってきます。羽田発の飛行機も画竜点睛の存在となって、万事計算準備されていたことがわかります。



海女夜泳

中桐敬二 千葉県白浜町白浜漁港

特別のイベントか伝統の神事か、松明掲げて片手泳ぎする海女の列、頼もしく残したい行事記録は貴重です。只、引き継いで欲しい若い娘の姿が見えないのが淋しいです。

運河部門賞



荒川ロックゲート をくぐる

多和裕二

東京都江戸川区荒川ロックゲート

一時期、道路、橋が整備されて、物資輸送が自動車に取って代わられました。そのため軽視されがちだった運河が、防災上から見直されて、こんなに手入れ改善、観光船まで訪れるとは感動しました。撮影も正攻法的構造物写真で安定感が味わえます。

歴史部門賞



今昔の港 伊豫久人

岡山県倉敷市児島観光港

適切な露出で画面全体、歴史遺産から近代建築物まで、精密描写されて感心しました。この要領で、どうか遠近違った角度からも撮影保存しておいて下さい。

防災部門賞



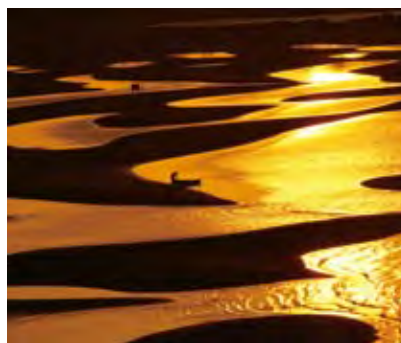
朝日を浴びて打ち 寄せる波

中村哲雄

静岡県御前崎市御前崎海岸

富士山を背景に、埠頭に打ち寄せる怒濤の迫力。時間帯と露出の関係が暗くなりましたが、両側コンクリート壁カットすれば、写真でしかキャッチ出来ない波の形質描写に成功したでしょう。計算し尽くした労作です。

中学生部門賞



いざ金色の海へ

加藤滉大

兵庫県たつの市新舞子浜海岸

これはもう大人の眼です。絶対還らない少年期、青年期の感覚を大切に、大人の気づかないウォーターフロントを観察し続けて下さい。学校での学習に人と違った発見があります。その喜び感動を、友達にも伝えて、どしどしこのコンテストにも応募されることを待っています。

優秀賞

景観部門



今日も一日ありがとう
武田敏久 青森県八戸市八戸漁港



月と富士
櫻井保志 千葉県館山市北条海岸



ぶつからないかなあ〜
堀場靖雄
神奈川県横浜市大黒ふ頭



夕闇の出港
飯田忠雄 静岡県静岡市清水区清水港



連なるクレーン
宮川信吾 東京都港区青海ふ頭



黄昏のコンビナート
藤川絢子
三重県四日市市四日市港



ボンボヤージ！
成岡 勲 静岡県静岡市清水区清水港



別れの日
三木雅也 香川県観音寺市伊吹港



夕映えの四日市港
築田和雄 三重県四日市市霞ヶ浦緑地



段々畑と漁港
白石信夫 愛媛県宇和島市水荷浦



光の響宴
富永秀二
鹿児島県鹿児島市鹿児島本港



雪日の
入り江
津田憲幸
京都府舞鶴市
舞鶴港



二つの
西海橋
川崎信義
長崎県佐世保市
大村湾



夜明けの
海金剛
橋初雄
和歌山県串本町
紀伊大島海金剛



新天地へ
松田裕次
宮崎県延岡市
島浦港



夏の
運天港
おおき
ゆうこう
沖縄県今帰仁村
運天港



美ら海
長嶺仁介
沖縄県那覇市
若狭海岸

仕事部門



厳冬の朝の築堤現場
吉井 泉 北海道釧路市釧路港(西港)



東京港のきりん
丹治昭子 東京都江東区東京港



海へ
村上 翼
愛媛県今治市
伯方町伊方



初公開のガントリークレーンのデモ
中村靖彦 愛知県豊橋市三河港(豊橋)



船びき網漁船の出漁
杉浦正幸 徳島県小松島市和田島港



宴の
あとに
松本隆平
愛媛県今治市
今治造船

優秀賞

観光・イベント部門



海の灯まつり

鈴木善実 東京都港区お台場海浜公園



快晴の大安吉日

山本健太郎 愛媛県今治市小浦矢野造船



空からの見物

田中和夫 神奈川県横浜市みなとみらい



W・総帆展帆

桶作和夫
富山県射水市海王町
海王丸パーク



通くじら
まつり

中村 博
山口県長門市
通地区青海海岸



門司港レトロ
を泳ぐ

河野 勉
福岡県北九州市
門司港



賑わいの
海岸線

早野由香
神奈川県茅ヶ崎市
西浜海岸

運河部門



冬の夜

横須賀 洋
北海道小樽市



プラント
の冬

上野幸介
三重県四日市市
三滝川

防災部門



訓練

森永 忠
神奈川県横浜市
横浜港



防災部門



寸刻の光に輝く

木下正治 福井県越前町越前海岸

歴史部門



木造六角洋式灯台

長谷川公子 鳥取県境港市

優秀賞について

ご覧のとおり、全応募作甲乙付け難い秀作揃いです。この見事な写真技術で、ぜひ日本中のウォータフロントの現状を写真に収めこの催しを通じ発表、人生記録、思い出づくりにも役立てていただければ望外の光栄です。只、応募に際しては、よくよく趣旨をご理解の上、的外れのないようお願いいたします。

後評【あとがき】

わが国の長大な海岸海浜の様相景観は、四季折々、地域ごと微妙に変化して感動を与えます。どうか元氣な写真愛好家の皆さんは、限なく探訪撮影記録、当コンテストにもどしどし出品、わが国の歴史にもとどめていただきたいと願っています。只近年、機材、照明の進歩多様化の影響でしょうか、修正を超えた個性的美術表現偏重や改変があまりいただけません。



港の守り 人たち 西山敦 新潟県新潟 市新潟西港



海を守る 佐藤圭夫 北海道初山 別村豊岬海 岸

国土交通大臣賞(最優秀賞)

因幡繁之(岩手県宮古市蛸の浜周辺)

国土交通省港湾局長賞

小形俊幸(神奈川県横浜市横浜港)

日本港湾協会賞

有田 勉(岩手県山田町山田港)

港湾海岸防災協議会長賞

小澤 宏(神奈川県横浜市横浜港)

景観部門賞

清水 進(神奈川県横浜市横浜港)

景観部門賞

玉置良宗(三重県四日市市四日市港)

景観部門賞

藤原敏明(広島県三原市竜王山)

仕事部門賞

佐藤芳恵(新潟県新潟市新潟西港)

観光・イベント部門賞

川上勝正(神奈川県横浜市横浜港大さん橋)

観光・イベント部門賞

菅原譲太郎(千葉県木更津市金田海岸)

観光・イベント部門賞

中桐敬二(千葉県白浜町白浜漁港)

運河部門賞

多和裕二(東京都江戸川区荒川ロックゲート)

防災部門賞

中村哲雄(静岡県御前崎市御前崎海岸)

歴史部門賞

伊豫久人(岡山県倉敷市児島観光港)

中学生部門賞

加藤凜大(兵庫県たつの市新舞子浜海岸)

優秀賞

【景観部門】

武田敏久(青森県八戸市八戸漁港)

櫻井保志(千葉県館山市北条海岸)

宮川信吾(東京都港区青海ふ頭)

堀場靖雄(神奈川県横浜市大黒ふ頭)

飯田忠雄(静岡県静岡市清水区清水港)

成岡 勲(静岡県静岡市清水区清水港)

藤川絢子(三重県四日市市四日市港)

築田和雄(三重県四日市市霞ヶ浦緑地)

津田憲幸(京都府舞鶴市舞鶴港)

橘 初雄(和歌山県串本町紀伊大島海金剛)

三木雅也(香川県観音寺市伊吹港)

白石信夫(愛媛県宇和島市水荷浦)

川崎信義(長崎県佐世保市大村湾)

松田裕次(宮崎県延岡市島浦港)

富永秀二(鹿児島県鹿児島市鹿児島本港)

おおきゆうこう(沖縄県今帰仁村運天港)

長嶺仁介(沖縄県那覇市若狭海岸)

【仕事部門】

吉井 泉(北海道釧路市釧路港(西港))

丹治昭子(東京都江東区東京港)

中村靖彦(愛知県豊橋市三河港(豊橋))

杉浦正幸(徳島県小松島市和島港)

村上 翼(愛媛県今治市伯方町伊方)

松本隆平(愛媛県今治市今治造船)

【観光・イベント部門】

鈴木善実(東京都港区お台場海浜公園)

田中和夫(神奈川県横浜市みなとみらい)

早野由香(神奈川県茅ヶ崎市西浜海岸)

桶作和夫(富山県射水市海王町海王丸パーク)

中村 博(山口県長門市通地区青海海岸)

山本健太郎(愛媛県今治市小浦矢野造船)

河野 勉(福岡県北九州市門司港)

【運河部門】

横須賀洋(北海道小樽市)

上野幸介(三重県四日市市三滝川)

【防災部門】

西山 敦(新潟県新潟市新潟西港)

森永 忠(神奈川県横浜市横浜港)

木下正治(福井県越前町越前海岸)

【歴史部門】

佐藤 圭(北海道初山別村豊岬海岸)

長谷川公子(鳥取県境港市)

主催

(公社)日本港湾協会

港湾海岸防災協議会

後援

国土交通省

協賛

(一社)日本旅客船協会

(一社)ウォータフロント協会

(一社)日本外航客船協会

(一社)日本マリーナ・ビーチ協会

(一財)みなと総合研究財団

(一財)港湾空港総合技術センター

富士フィルムイメージングシステムズ(株)

審査員(順不同・敬称略)

齋藤 潮<東京工業大学大学院教授>

廻 洋子<淑徳大学教授>

富岡哇草<写真家>

松野正雄<写真家>

茶谷 茂<写真家>

眞田 仁<国土交通省港湾局海岸・防災課長>

小谷野喜二<国土交通省港湾局海洋・環境課長>

須野原 豊<(公社)日本港湾協会理事長>

指宿港海岸 直轄海岸保全施設整備事業 現地着工

九州地方整備局 鹿児島港湾・空港整備事務所
海岸課長 三好一喜



1. はじめに

「東洋のハワイ」と呼ばれ、毎年4月29日に市長が「アロハ宣言」を出すことでも知られる、鹿児島県指宿市は、本土最南端に位置する観光地で、平成25年度の観光客数は約393万人に達しました。その中心となる指宿港海岸は、錦江湾に面し、温泉で温まった砂を体にのせて楽しむ「砂むし温泉」を観光の目

玉としている海岸であり、その背後には数多くの宿泊施設・住宅が密集しています。

この海岸には、かつて豊かな砂浜がありました(写真-1参照)。ところが、昭和26年のルース台風襲来に伴う高潮と高波により甚大な被害が発生し、災害復旧事業により海岸堤防等が整備されました。その後も砂浜の侵食はおさまらず、その段階に応じて補助事業による

施設整備(突堤や離岸堤の整備)が実施されてきましたが、今ではほとんどの範囲で砂が流失し、汀線は大きく後退したままの状況となっています(写真-2)。近年では、台風襲来に伴う高波によって越波・浸水被害が発生し(写真-3)、護岸の老朽化と砂浜の侵食に伴う護岸基礎の洗掘によって護岸の一部が倒壊する恐れも生じています。

このような状況の中で、海岸背



写真-1 昭和10年頃の海岸(まわたり写真館提供)



写真-3 平成16年の越波・浸水被害(指宿市提供)



写真-2 現在の指宿港海岸

後に居住する住民、更には海岸の利用者を守るため、平成23年度より事業化検証調査として抜本的な侵食対策の検討を進め、平成26年度に直轄海岸保全施設整備事業として離岸堤、突堤、護岸及び養浜の整備が事業化されました。

2. 現地着手までの取り組み

指宿港海岸の整備にあたっては、学識経験者、地元関係者等で構成

する指宿港海岸侵食対策施設整備検討委員会(以後、委員会と言う)を設け、侵食対策施設の詳細な構造、景観、環境及び砂むし温泉に配慮した具体的な整備方法等について検討を進めてきました。また、地域住民等の意見は指宿港海岸保全推進協議会が主催する指宿港海岸ワークショップ(以後、WSと言う)で集約され、それを委員会でも報告・議論するなど、委員会、WS及び行政機関が一体となって、可

能な限り地元の意向に沿った事業となるように取り組んできたところです(図-1)。

このWSでは、地域住民等によるグループ討議や有識者からの講演の他、下関港湾空港技術調査事務所水理実験センターでの実験見学会等が行われ、現在までに通算13回、延べ約900人の参加をいただいております。

指宿港海岸の施設は、離岸堤(改良)、突堤、護岸(改良)及び護岸<

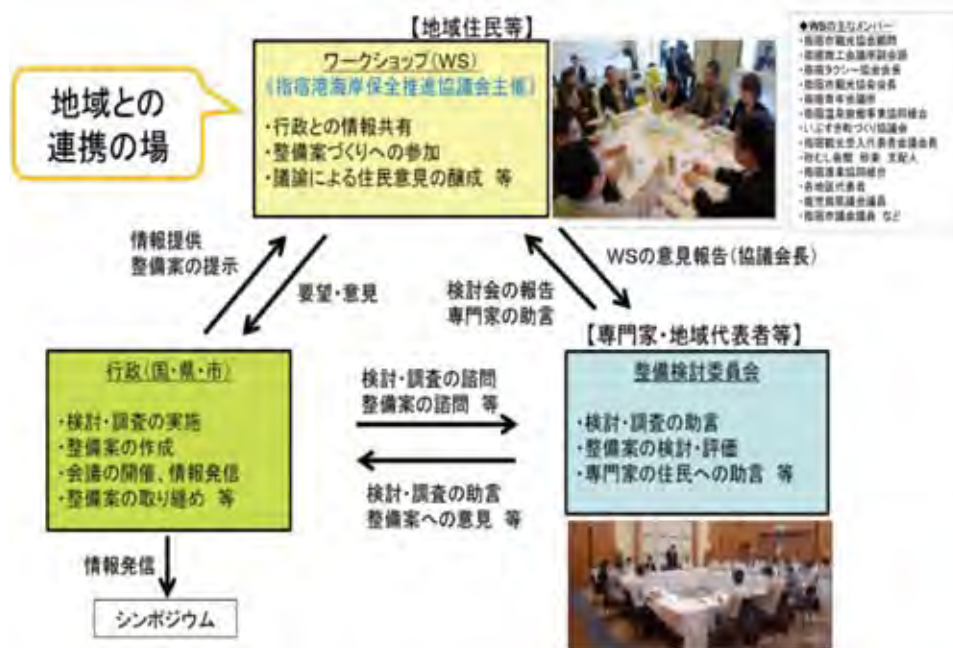


図-1 指宿港海岸整備の検討体制

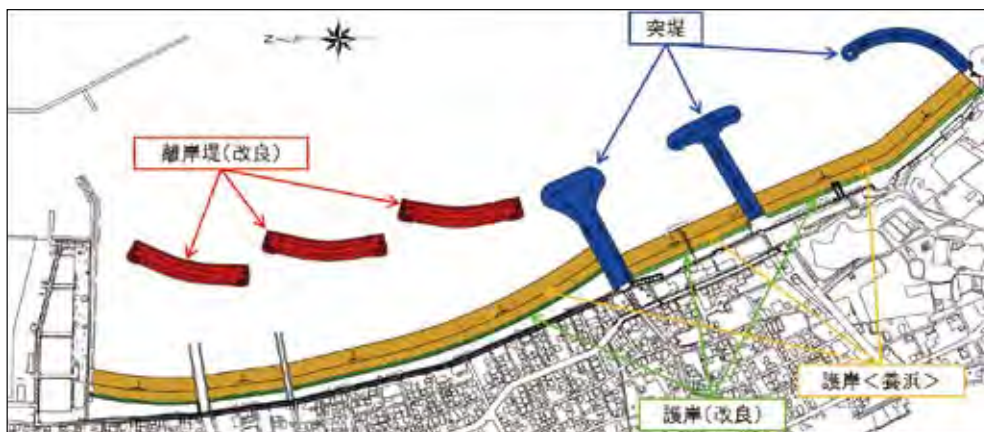


図-2 現在検討中の施設配置(案)

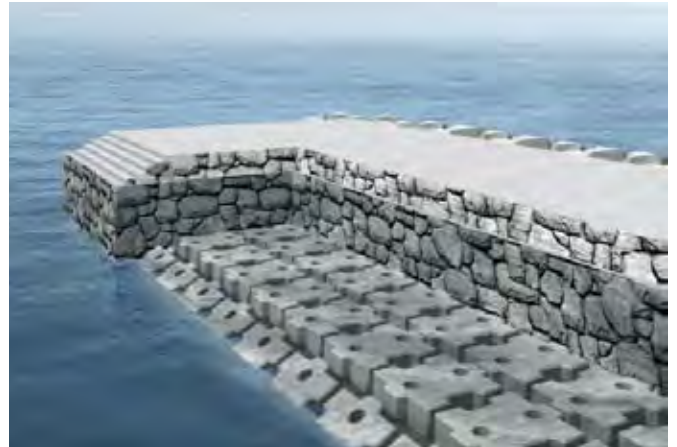


図-3 離岸堤(改良)のイメージ

※陸から海を望む景色をなるべく阻害しないように、できる限り天端高を下げ、陸から見える面に石積模様の化粧型枠を使用しています。

養浜>で構成されており(図-2参照)、近年に越波災害の生じている北側の区間にある離岸堤(改良)から整備に着手しました。南側の区間は天然砂むし温泉に悪影響を与えない整備方法を慎重に検討していく必要があります。

離岸堤(改良)の整備にあたっては、WSにおいて地域住民等から「防護機能を満たすことを最優先して欲しい」や「観光産業の中心的なエリアなので景観には十分に配慮して欲しい」といった要望が出まし

た。これらを両立するために、防護機能を発揮しつつ陸側からの景観に配慮した構造(図-3)を採用することにしました。

3. 現地着工(着工式典)

事業化から1年半経った平成27年10月17日(土)に、指宿市の「ふれあいプラザなのはな館」で国と県、市の主催により『指宿港海岸整備事業着工式』(以後、着工式と言う)を行いました(写真-4)。地元

フラダンスチームによるダンスも披露され、明日を担う地元小学校の児童達も鍬入れに参加して、安全で円滑な工事によって砂浜が蘇ることを祈念しました(写真-5、6)。

現在は、陸上において離岸堤(改良)の消波・被覆・本体ブロック等の製作工事、海上では捨石マウンドの築造等の工事を行っており(写真-7、8)、整備が順調に進捗しているところです。



写真-4 着工式典での来賓挨拶



写真-5 フラダンスの披露



写真-6 来賓・関係者と地元児童による歎入れ



写真-7 ブロック製作



写真-8 捨石マウンド施工

4. おわりに

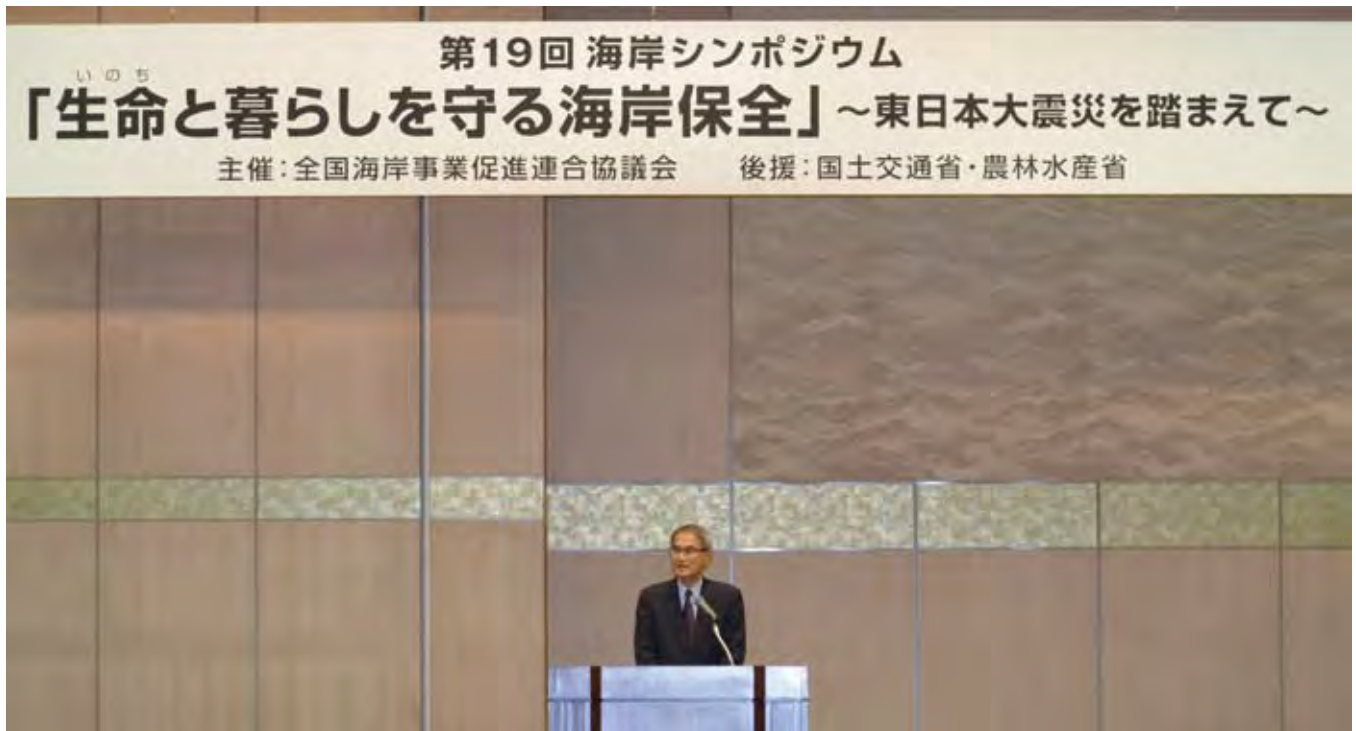
指宿港海岸の施設はこれから本格的に整備が進められていくこと

になります。事業の本来の目的である防護機能の確保はもちろんのこと、国内有数の温泉観光地であることも踏まえ、整備の内容や手

法について地元と十分に調整しながら、できる限り早い時期に事業の効果が発現されるように進めていきます。

第19回「海岸シンポジウム」の開催

港湾海岸防災協議会



全国海岸事業促進連合協議会は、平成27年12月4日(金)にシェーンバッハ・サボー（砂防会館別館: 東京都千代田区平河町）で、日本全国から海岸管理者や関係市町村の皆様をはじめ約260名の参加を得て、第19回海岸シンポジウムを開催いたしました。

今回のシンポジウムは、津波対策、減災対策、地域連携などの強化を推進するための情報共有を図り、海岸保全施設の役割を最大限に発揮させ、よりよい海岸空間の保全と創造、安心して暮らせるまちづくりについて考えることを目的として、専門家の方々による講演、国、県、研究所職員による事例紹介を行いました。



磯部会長

シンポジウムでは磯部雅彦 全国海岸事業促進連合会協議会会長の開会挨拶後、今村 東北大学災害科学国際研究所長から『東日本大震災の教訓と今後の防災・減災対策のあり方』と題した基調講演がありました。

講演では、東北地方での地震・津波の歴史、復興に向けて現状を知



今村所長

ること、災害に強い社会を作るために災害サイクルを知ることに関して、地域での復興に向け津波の規模に応じた対策、住民合意の形成、多重防御の考え方などの説明・事例紹介があり、記憶の継承と災害文化を創る新たな取り組みの重要性について説明頂きました。



田中センター長

次に田中 東京大学大学院総合防災情報研究センター長から「生命と暮らしを守る海岸保全」ハード・ソフトの一体的対策に向けての特別講演がありました。田中センター長からは、この対策として避難再考、巨大想定、避難に資する情報の3項目についてそれぞれお話がありました。避難再考では、生活避難(=水平避難)と緊急避難(=垂直避難)との違い、リードタイム(予測可能性)と移動距離(規模)に応じた災害と避難パターンの類型等、巨大想定では、減災サイクル(事前の対策レベルをあげられれば、被害を小さくでき、事前の投資に回すことができる)、L1とL2それぞれの対策、避難に資する情報では、多様化・詳細化する災害情報、防災・気象にかかる情報体系等について、具体事例を交えながら説明頂きました。

講演後、国、県、研究機関の担当者からそれぞれの業務・研究に応じた事例紹介が行われました。



井上室長

井上 国土交通省水管理・国土保全局海岸室長からは『東日本大震災からの海岸災害』と題し、東日本大震災を踏まえた津波防災対策の基本的な考え方、地域の状況に応じた海岸堤防の高さ等の見直し、海岸堤防の高さと復旧・復興事業の進捗状況についての説明がありました。



佐藤理事長

佐藤 宮城県仙台東土地改良区理事長からは、『仙台東部地域津波被災の地域復興と新たな芽生え』と題し、東日本大震災における宮城県の被害状況、海岸堤防復旧工事、農地の復旧と再生状況、行政からの被災農業者への経営支援制度の説明、集落営農組織の法人化など新たな取組事例の紹介などを頂きました。



松島主任研究員

松島農村工学研究所施設工学研究領域主任研究員からは、『津波・自身に粘り強く抵抗する海岸堤防の新技术 ～研究機関からの事例紹介～』と題して、新技术導入の背景と必要性、被災メカニズムの検証、粘り強さの検証、実用化技術の紹介がありました。

今回のシンポジウムは、東日本大震災後5年が経とうとしている今、再び防災への関心を高め、海岸保全施設だけで防護するのではなく、地域と協力した防災体制の整備や適切な避難等によるソフト面の対策を組み合わせた総合的な対策を官民一体で展開していく観点からも、大きな意義を持つものになりました。



会場の様子

天草市

天草市役所 観光文化部 観光振興課
 主事 中 田 智 弥



1. はじめに

熊本県天草市は、熊本県南西部に位置し、周囲を3つの海（有明海、八代海、東シナ海）に囲まれた天草諸島の中で、天草上島の一部と天草下島、御所浦島などで構成されています。平成28年9月に開通50周年を迎える「天草五橋」により九州本土とつながるほか、長崎県の島原半島や鹿児島県の長島町と、フェリーで30分で行き交っており、また天草空港からは、福岡や大阪にも短時間で移動することが出来るなど、陸海空さまざまな交通があることも特徴の一つです。

平成18年3月に2市8町が合併して誕生した天草市は、面積は、683.78㎦、人口は85,733人（H27.11月末時点）、となっており、広大な面積のほとんどが山岳・丘陵地で占められ、平野部は少なく河川沿いの平地部や海岸線の河口部に市街地や集落・農地が展開しています。

産業は、温暖な気候を生かした農業や、豊かな水産資源を生かした漁業を主として発展してきました。また、雲仙天草国立公園に指定された自然環境や、キリシタンの歴史文化など、多くの地域資源に恵まれています。

2. 天草市の観光

豊かな自然や、おいしい食べ物が多くある天草には、年間約290万人の観光客が訪れます。今、注目を集める天草市を代表する観光資源をいくつか紹介します。

○天草の崎津集落とキリシタン文化

ゴシック様式の教会を有する崎津集落は、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の14ある構成資産の一つとして、平成28年7月の世界文化遺産登録を目指しています。ひっそりとした漁村にたたずむ現在の教会



崎津教会



大江教会



マリア像の夕陽



サンタクロース会議

は、昭和9年フランス人宣教師ハルブ神父の時代に再建されました。祭壇は、禁教時代、絵踏みが行われていたという場所にあり、また畳敷きであることも特徴の一つとなっています。

この崎津集落の他にも、キリシタン文化を感じられる場所は天草島内に多くあり、その一つが大江教会です。ロマネスク様式のこの教会は、キリスト教解禁後、天草で最も早く造られた教会で、現在の建物は昭和8年にフランス人宣教師ガルニエ神父が地元信者と協力して建立しました。

○世界サンタクロース会議in天草

平成25年から毎年9月に行われているサンタ会議では、デンマークにあるグリーンランド国際サンタクロース協会という団体の公認のサンタさんが世界中から天草に集まり、クリスマスの正しい過ごし方など様々な問題を討議しています。

なぜ、天草にサンタさん達がやってくるようになったかという、禁教令が敷かれた困難な時代にあっても、天草では隠れキリシタンの人々が「霜月祭(しもつきさい)」と名を変

えクリスマスを祝い続けてきた歴史があり、天草こそ「家族の絆」を確認しあう本来のクリスマスを考えるにふさわしい地域であることなどから、「サンタクロースの聖地」として認められたからです。サンタ会議では、同時にサンタ・ウィンターゲーム日本代表選考会も行われます。ウィンターゲームでは、サンタクロースとしての身だしなみチェックや煙突のぼりなどの競技を行い、11月にスウェーデンで行われる「サンタ・ウィンターゲーム」の出場権を競います。

○美しい海とイルカ

天草市五和町の通詞島沖合には、約200頭の野生のミナミハンドウイルカが暮らしています。この一帯は、起伏に富んだ海底と潮流によって、小魚などがたくさんいる豊かな海域であり、昔から網を使わない素潜り漁が行われているため、野生のイルカが生息しています。群れで行動するイルカ達がいることで、サメも寄って来ず素潜り漁も安心して出来るため、この地域ではイルカと共生してきたのです。



イルカウォッチング



サンドアート



恐竜の化石(レプリカ)

○天草ジオパーク

ジオパークとは、ジオ(geo…地球・地質)を学ぶ旅(ジオツーリズム)のなかで、山・海・川を良く見て、その成り立ちとしくみに気づき、生態系や人間生活との関わりを考えることができる場所のことです。

風光明媚な多島海と、ケスタ地形

に現れる特徴的な地質・地形をもっている天草地域は、天草ジオパークとして日本ジオパークに登録されています。御所浦島では、平成9年に恐竜の化石が発見されており、現在でも島内にはアンモナイトや二枚貝の化石が多く残っています。化石採集体験では、どなたでも簡単に貝などの化石を見つけることができます。

○天草グルメと特産品

海に囲まれた天草では、もちろん海の幸が豊富です。

8月下旬から12月にかけては、伊勢えび漁の解禁に合わせ、伊勢えびのグルメプランや宿泊プランが登場します。また、7～8月はタコも豊富にとれます。タコ釣り体験や、タコつぼオーナーといった制度があるほか、たくさん獲れたタコが干されている様子は、天草の風物詩の一つです。

海の幸のほか、温暖な気候を生かし、柑橘類やオリーブの栽培なども盛んです。デコポンや天草産オリーブオイルなどは、お土産品としても喜ばれます。

特産品は、他にも地鶏のブランドである「天草大王」や天草黒牛のお肉、車海老やウニ、イチジクなど沢山



地ダコカルパッチョ



干シダコ



天草ちゃんぽん



天草寿司



伊勢エビグルメ

あります。

○お菓子とスイーツ

キリスト教伝来とともにやってきた南蛮文化の影響で生まれたおやつも多く存在し、愛され続けています。ロールケーキとあんこをお餅(求肥)で巻いた「赤まき」はその一つです。また、イチジクやデコポンなどの果物を使ったスイーツも日々、進化しつづけています。イチジクは天草では「南蛮柿」と呼ばれ夏のフルーツとして親しまれているのですが、九州のクリシタン大名の名代としてローマに派遣された天正遣欧少年使節に随行したイエズス会のメスキータ神父の記録(手紙)によると、「ポルトガルのリスボンからイチジクの苗を持ってきた。」との内容があるため、天草はイチジク発祥の地とも言われています。



いちじくフロマージュ

○天草陶石と陶磁器

天草の西海岸地域で掘り出される陶石は品質、埋蔵量ともに日本一と言われており、国内生産の半数以上を占めています。佐賀の有田焼などの県外の焼き物産地に多く出荷されており、強度が強く、焼き上がりは濁りの無い透き通った美しい色に仕上がるのが特徴です。天草島内にも個性ある窯元が多数点在し、国の伝統工芸品でもある美しい天草陶磁器を



天草陶磁器

生み出しています。

「天草大陶磁器展」などのイベントが毎年行われるほか、イベント以外でも、窯元では「ろくろ体験」や「絵付け体験」などが出来るのも特徴です。

○伝統芸能と祭り

天草市牛深地域に伝わる「牛深ハイヤ節」は、江戸時代から伝わる「元祖ハイヤ節」です。現在では全国40カ所以上のハイヤ系民謡のルーツとなっています。ハイヤ節とは、牛深に寄港した船乗りたちをもてなすために牛深の女性たちが歌い始めた唄です。古くから天然の良港であり豊かな



牛深ハイヤ祭り

海産物の産地であった牛深港は、日本各地に寄港する北前船などのシケ待ちの港としても賑わっていました。現在では、毎年4月に牛深ハイヤ祭りが開催されます。

天草二大ハイヤ祭りのもう一つは、夏に本渡地域で開催される「天草ほんどハイヤ祭り」です。道中総踊りのほか、約10,000発の花火大会も毎年行われており、天草の夏の夜を彩ります。

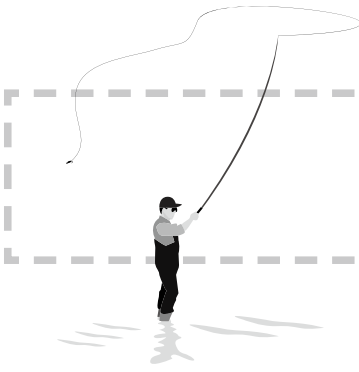
他にも無形民俗文化財として指定されている「栖本太鼓踊り」や、福連木地方に伝わる「福連木の子守唄」など、地域の祭りとともに保存・伝承しているものがあります。

3. さいごに

ここではご紹介しきれない美味しいものや美しいものが天草には沢山あります。そして、天草の人たちのやさしさや心づくしのおもてなしを、訪れて堪能していただきたいと思います。是非、天草にお越しください。お待ちしております！



花火大会



投げ釣りのカレイ考

愛知県釣りインストラクター連絡機構
顧問 大田 豊明



♪秋になれば 木(こ)の葉こ落ちて
どじょっこだの ふなっこだの
舟(ふね)こ来たなと思うベナ
♪冬になれば 氷(しが)こも張って
どじょっこだの ふなっこだの
天井(てんじょ)こ張ったと思うベナ
(「どじょっこふなっこ」詞：東北地方
民謡。曲：岡本敏明)

釣りの種類にもいろいろあるが、釣魚種の多彩さは投げ釣りが一番だろう。投げ釣り団体の全日本サーフキャストリング連盟ではその魚種を41種とし、それぞれの釣魚記録を管理している。なかでも二大人気魚は初夏のキスと晩秋のカレイ。今回はカレイの釣況などから自然環境について考えてみる。

カレイは暑いシーズンを水深のある外洋で過ごし、秋になると産卵



マコガレイの顔のUP

のために湾内の浅い砂地へやってくる。12～1月に産卵し、5～6月ころにもとの深い海へと帰っていく。学術的には硬骨魚綱-カレイ目-カレイ亜目-カレイ科に属する。ヒラメも同じカレイ亜目のヒラメ科に分類され、いわば親戚関係。平たい体をし、両目が体の右側にあることから俗に「左ヒラメに右カレイ」と大まかな見分け方をする。

生息域は北極海、太平洋、インド洋、大西洋の沿岸の浅い海から水

深1,000mにいる海水魚。世界で100種、国内で数十種類が知られ、マガレイ、マコガレイ、イシガレイ、ヌマガレイ、クロガシラカレイ、オヒョウなどがお馴染みだろう。

食性は肉食で海底近くのゴカイ類、二枚貝、底魚の稚魚、エビ、カニなど。釣りエサはイワソメやアオイソメ、アサリのむき身などを用いる。彼らはよく発達した側線、嗅覚、視覚によってエサを察知するとされる。その成長は1年で10cm、2年で15cm、3年で30cmに達し、メスは15cm、オスは12cmくらいから産卵に加わり、水温10度前後の浅い砂地で産卵する。

投げ釣りでは秋の産卵期がカレイ釣りのシーズンになる。およそ渚から20～80m以内で釣れることが多い。



瀬戸内海 山口県下で釣れた 50 cmを超えるイシガレイ



瀬戸内海 周防大島のマコガレイ



愛知県渥美半島で釣れた 42 cmのイシガレイ



釣り場風景 大きく竿をあおって取り込み



東北宮城県下でのカレイの数釣り

投げ釣りで釣った大カレイの記録を全日本サーフの日本記録(2015年9月末日現在)から抜粋してかかげる。

マコガレイの日本記録は61.3cmで2000年6月3日に宮城県牡鹿町、イシガレイは68.2cmで1999年3月4日宮城県石巻市、クロガシラカレイは65.6cmで2015年6月1日に北海道室蘭市、ホシガレイは68.9cmで2013年3月2日茨城県大洗町においてそれぞれ釣れている。



標識を付けて 釣ったカレイを放流



瀬戸内海での大型カレイの数釣り



愛知県渥美半島のイシガレイ

カレイの日本記録はその昔、西日本、とりわけ瀬戸内海が多かった。最近では温暖化の影響だろうか、北の海域が圧倒的に多い。同会では昭和40年代から毎年11月、カレイの1匹長寸を競う投げ釣り全国大会を開催している。優勝魚は50cmを超える大カレイ。この記録をひもとけば、海の自然環境の変移がおぼろげながら見えてくる。

昭和40年代から平成の始めまでの優勝魚は瀬戸内海がほとんどだった。平成3年に初めて北海道から



愛知県渥美半島でのカレイ釣果（イシガレイ）



東北宮城県下 東海林さんの釣った大カレイ

56.3cmの優勝魚が現われる。これを境に平成6年、9～12年、14年、16～17年と宮城県、以後東北北海道から優勝魚が続出している。つまり平成以降、大カレイは瀬戸内から北の海へと移り替わっているように観える。

筆者も巨カレイを求めて全国各地を釣り歩きこの傾向を実感する。島しょ部の多い瀬戸内は複雑な地形が豊穡の海を育み、大カレイ釣りのメッカであった。近年は海水温の上昇に伴い南の魚達が姿を見せ始め、海の生態系にも徐々に変化が見えはじめている。この動きは同じころ、瀬戸内からアイナメが減少し始めた時期とも重なる。

このようなデータが釣り団体以外にあるか否かは知る由もないが、過去少なくとも魚の異変に気づき声を発してきたのは他ならぬ釣り人である。慣れ親しむ水辺や自然環境、魚などへの想いは純で熱い。日々の釣魚実感はもとより、同じ季、海域、ルールで行う釣り大会の歴史と資料が貴重な積み重ねとなって語りかけてくる。

我々は、もの言わぬ魚たちの声なき声に、もっと真摯に耳を傾ける必要があるのではないだろうか。



愛知県渥美半島イシガレイのダブル



カレイ釣り風景



愛知県渥美半島の釣り風景

全国海岸リレー紹介

北海道

苫小牧港海岸(勇払浜地区) 浸食対策事業の紹介

苫小牧港管理組合施設部施設課埤頭整備係
高野 綱康

●はじめに

苫小牧港は、北海道の南西部に位置し、札幌都市圏に最も近い太平洋に面した港です。新千歳空港にも近接していることから、地理的にも利便性が高く、北海道の海の玄関として、カーフェリー、RORO船、内外航定期コンテナ船等、多数の航路を有しています。また、年間の取扱貨物量は約1億トンにもおよび、北海道の貨物の約半分を取り扱う北日本最大の港です。国際拠点港湾として、北海道はもとより、国内屈指の流通拠点港湾として、大きな役割を果たしています。

●これまでの経緯

苫小牧市の南東に位置する勇払海岸では、平成9年と平成18年に、異常気象等によって天然海岸の浜崖が崩壊し、護岸を災害復旧事業で整備しています。しかしながら、護岸が整

備されていない区間においては、台風や低気圧による高潮等により浜崖が浸食され、汀線の後退が進行しています。これに加え、昭和55年から62年に整備した護岸前面の離岸堤の一部が沈下しており、消波・堆砂機能が低下していることから、高波等に対する背後地への防護機能が消失している状況となっています。



勇払海岸整備状況



整備前状況:浜崖が浸食している



整備後状況

●勇払浜地区護岸・離岸堤整備事業について

勇払浜地区における海岸事業は、地域住民の生命と財産を高波等による浸水被害から守るため、平成26年度に事業採択を受け、平成27年度から工事が施工されています。平成29年度までに、L=300mの護岸整備、L=100mの既設離岸堤の改良をする計画で、これまでにL=300mの波返しブロックによる護岸が完成しています。今後は、引き続き残りの離岸堤の整備を行い、平成29年度の完了を目指し事業を進めることとしています。

東北

中之作港における海岸堤防(無堤区間)の整備について

福島県 土木部 港湾課
副主査 石森 大輔

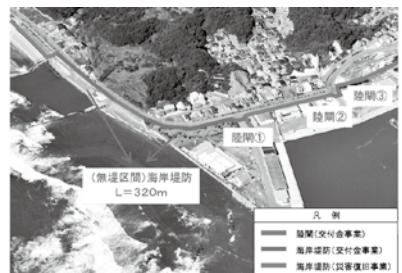
●はじめに

中之作港は、東北地方太平洋側最南部の福島県いわき市に位置しています。沿岸域は黒潮と親潮が交差する「潮目の海」となっており、漁業が盛んな土地柄でもあります。

平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地



津波状況(中之作港)



中之作港海岸整備状況位置図

震に起因して発生した津波は、中之作地区で最大津波高5.4mに達しました。中之作港でも防波堤、海岸堤防が大きく被災したうえ、漁業関連施設の流失、さらには背後地の住宅の倒壊、浸水など多くの被害を受けました。

このため平成23年度から港湾及び海岸施設の災害復旧事業に取り組んでおり、海岸堤防の無堤区間についても、平成25年度から社会資本整備総合交付金事業で高さT.P.+7.2mの海岸堤防及び陸間の整備を進めています。



海岸堤防整備状況



陸間整備状況(施工中)

●無堤区間の整備について

中之作港海岸の無堤区間、延長L=320mについては、前後の被災した既設堤防の災害復旧事業と同断面で整備を進めており、中之作港の港内と背後地域を結ぶ臨港道路と堤防が交差する3箇所については、地元及び関係機関との調整により、陸間を設置することとしました。

陸間の設置については、操作時の安全を確保するうえで、「閉鎖の自動化」、「操作の遠隔化」、「通信手段・電源等の多重化」の3点を目的とする仕組みを構築することとしました。特長としては、Jアラート等の緊急警報放送を現地の陸間が直接受信して自動閉鎖することに加え、県の出先事務所からの遠隔手動操作を可能とした多重対策を講じていることです。また、運用面についても津波到達時間を基に、十分な退避時間を確保したうえで、津波到達までに完全閉鎖できるようにしています。

●おわりに

本事業は平成27年度末の完成を目指し、工事を進めているところです。今後は、一日も早く施設を完成させ、住民の安全・安心の確保に努めてまいります。

全国海岸リレー紹介

関東

東京湾クリーンアップ大作戦はしりみず

横須賀市港湾部港湾総務課

●はじめに

横須賀港海岸は、南北約60kmに延びる東京湾内の海岸です。

その中で走水伊勢町海岸は、東京湾口の浦賀水道に面し、猿島や房総半島、東京湾に出入りする大型船を間近に眺めながら海水浴を楽しめます。現在では、漁船対応の小型船たまりの静穏度確保を目的とした防波堤整備が進められており、漁港を身近に感じることができる自然海岸です。

また、春から夏にかけては潮干狩りもでき、市民等が海岸に親しめる場となっています。

●東京湾クリーンアップ大作戦はしりみず

「東京湾クリーンアップ大作戦」は、東京湾の清掃活動を広く知ってもらうため、関東地方整備局ほか東京湾の各港が広報活動を行っています。

横須賀市では、この活動の一環として、東京湾にある自然海岸の走水伊勢町海岸の自然を次の世代へ残していくため、走水周辺の小中学校の生徒及び保

護者等により清掃活動を行う「東京湾クリーンアップ大作戦はしりみず」を行っています。

また、この機会にあさりの潮干狩りを行い、走水伊勢町海岸がもつ豊かな自然を楽しみながら体験できます。

この行事は、毎年300名前後の参加者があり、好評をいただいています。

横須賀港海岸全体では、広報活動や啓発活動により昨年7月の1ヶ月間の海岸清掃等で2.3トンものゴミを集めることができ、海岸清掃の輪が広がっていることを実感できました。



●おわりに

「東京湾クリーンアップ大作戦はしりみず」も平成13年から始まり、今年度で15年目を迎え、横須賀市を主催として協力団体も11団体を数えるまでになりました。

今後もこの活動を継続し、美しい海岸を次の世代に残していきたいと考えています。

北陸

ヒスイが拾える!? 姫川港海岸

新潟県交通政策局港湾整備課

1. はじめに

姫川港は新潟県西南部に位置し、周辺地域で産出される良質な石灰石を利用したセメント工業、化学工業とともに発展している日本一元気な地方港湾※です。

姫川港海岸(青海・寺地地区)(以下「当地区」という。)は、姫川港の西側に位置し、「どんど焼き(さいの神)」等のイベントで地元の方々から利用されたり、ヒスイ等の石探しで県内外のコアなファンから親しまれたりしている海岸です。

2. 海岸侵食対策事業の経緯

戦国時代に上杉謙信の上洛を阻んだと言われている天下の険「親不知」から想像できるように、富山湾沿岸の海岸は、ほぼ全域で侵食傾向にあります。

当地区は、背後の山地と海岸線に囲まれた、わずかな平坦地に市街地が集中しており、また県内でも特に冬期波浪が厳しく砂浜の侵食や越波による浸水被害を受けてきたことから、平成2年度から侵食および越波対策を目的とした面的防護方式による海岸保全施設整備を進めてきました。

また、海岸直背後が住宅地となっていることから、海辺へのアクセス向上と景観にも配慮した整備にも取り組んでいます。

3. 現在の整備状況

平成2年度から離岸堤(潜堤)5基と緩傾斜護岸 約1.6kmの整備に着手し、現在は離岸堤(潜堤)1基(約120m)の整備を残すところとなっています。

4. 世界ジオパーク

当地区を含む糸魚川市内の24のジオサイトからなる「糸魚川ジオパーク」は、2009年8月、日本で初めての「世界ジオパーク」に認定されました。

冒頭で「ヒスイ等の石探し」について触れましたが、当地区をはさむ一級河川姫川と二級河川青海川から、ヒスイ等様々な種類の石が運ばれてきます。

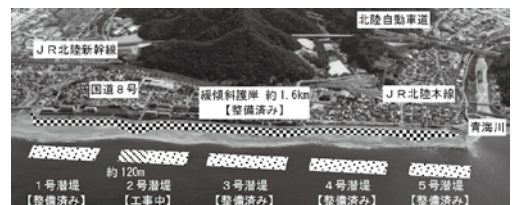
河川部は国の天然記念物「小滝川・青海川硬石産地」に指定されており、岩石等の採取が法律で禁止されていますが、海岸部は禁止区域でないことから、大雨後には、海辺に打ち上げられたヒスイ等を鉱石ファンが拾いに訪れます。

特に、当地区ではラ

ベンダー色のヒスイが見つかることから、「ラベンダービーチ」という愛称が付けられています。

北陸新幹線利用の2度目の旅行の際には、膨大な小石からなる海岸と、きれいにすみきった海が特徴の当地区を、訪問先のひとつに選んでみませんか(笑)

※地方港湾における公共岸壁 取扱貨物量(内航フェリーを除く)日本一(4,574千ト、2013年)



姫川港海岸(青海・寺地地区)全景



「糸魚川ジオパーク」のマスコットキャラクター



「石探し」の様子



ラベンダービーチ

中部

みなとオアシス津なぎさまち(津松阪港)

津市都市計画部交通政策課
主査 奥山 真治

●はじめに

津市は、かつて「安濃津(あのと)」と呼ばれ、「日本三津(日本の三大港)」の一つと言われた重要な港でしたが、1498年の明応の大地震により港の機能が失われたと言われていました。古くから復興への思いは強く、三重県の海の玄関口となる「みなと」の整備が待ち望まれてきました。そこで津市では、広範囲に及ぶ新たな人の交流を促し、地域活性化の起爆剤になるものとして、平成17年2月17日の中部国際空港の開港に合わせ、高速船による海上アクセス拠点「津なぎさまち」が開港し、その後、平成20年8月にみなとオアシスとして登録認定されました。



なぎさまち全景

●とりくみ

毎年7月下旬に津なぎさまちを最大限に活用した津なぎさまちフェスタを開催し、津花火大会との連日開催により津の海の夏の風物詩となっています。

冬には、旅客船ターミナルを飾るイルミネーションのほか、三重大学環境ISO学生委員会の協力により、ペットボトルを活用した高さ3m程のECOツリーの展示も行っています。

また、中部のみなとオアシスとの連携による、相互の地域の人との交流を目的とした、クルーズイベントを数回にわたり開催しました。



高速船



なぎさまちフェスタの様子



三重大生による、クリスマスイルミネーション

このように、津なぎさまちでは、人と人のつながりを大切にした、人が集い賑わう“みなと”を目指した取組を行っています。

●おわりに

平成28年5月の伊勢志摩サミット開催を契機に沢山の方に三重県を訪れていただきたいと考えています。中部国際空港に降り立った際には、三重県まで最短45分で来ていただくことが出来る高速船(海上アクセス)が運航しておりますので、三重県へお越しの際は、ぜひ早くて便利な高速船をご利用ください。お待ちしております。

近畿

近畿みなとオアシスに行ってみよう!!

近畿地方整備局

地域の賑わい創出拠点となっている「近畿みなとオアシス」。今回は近畿地方整備局管内のみなとオアシスを紹介します。



近畿のみなとオアシス

□あおい(相生市) 天然温泉の露天風呂やレストラン、特産品の販売所などがある「あおい白龍城」などが基本施設となっており、ペーロン祭や海の体験の環境学習などが行われています。

□たいみやづ(宮津市) 日本三景の天橋立の近くにある田井宮津ヨットハーバーが基本施設となっており、宮津湾にぎわいフェスタなどが開催されています。

□KOBE(神戸市) 現代芸術の発信基地「波止場町TEN×TEN」では、展示作品を見て回ったり、アクセサリ作りなど様々な芸術体験をすることができます。

□姫路(姫路市) 姫路みなとミュージアムや飾万津臨海公園などで構成されており、姫路港ふれあいフェスティバルなどのイベントが開催されています。

□みさき(岬町) 深日港観光案内所が基本施設となっており、その周辺のイベントヤードや、潮騒ビバレーでは、深日港フェスティ

バルやビーチバレー大会などが開催されています。

□京たご(京丹后市) カキの養殖が行われ、渡り鳥の休息地でもある久美浜湾に位置する「みなとオアシス京たごセンター」では、ドラゴンカヌー選手権や久美浜カキ・魚まつりなどが行われています。

□和歌山(和歌山市) H27.12.17に登録されました。今後、基本施設である和歌の浦アートキューブを拠点として、地域の特性を生かした活動が期待されます。



あおい白龍城



波止場町TEN×TEN



全日本ビーチバレー女子選手権大会



田井宮津ヨットハーバー



姫路港ふれあいフェスティバル



久美浜カキ・魚まつり

全国海岸リレー紹介

中国

瀬戸田サンセットビーチを活用した賑わいづくりについて

広島県土木建築局港湾漁港整備課
主任 西尾 幸士

●はじめに

瀬戸田港海岸垂水地区(瀬戸田サンセットビーチ)は、瀬戸内海にある生口島西岸に位置した海岸で、植栽やボードウォークなど美しい景観に配慮した海浜整備により、海と人との共生を見つめたマリリゾートとして、平成7年度に供用しました。

また、全長800mにわたる白い砂浜と澄んだ青い海は中国地方でも屈指の海水浴場となっており、「日本の水浴場88選」にも認定され、海水浴を主体とした利用で毎年10万人前後の人々が訪れています。

●イベント

瀬戸田サンセットビーチの海開きは、「リフレッシュ瀬戸内」と銘打つ小中高生や住民らおよそ1,500人が参加するビーチの清

掃活動から始まり、海水浴シーズンがスタートします。また、瀬戸田サンセットビーチでは海水浴のほか、夏まつりの花火大会やシーカヤック体験、みなとオアシスSea級グルメ全国大会など「ビーチ」を活用した、さまざまな催しが毎年行われております。

一方、瀬戸田サンセットビーチのある生口島は、瀬戸内海の穏やかで美しい風景を楽しめるサイクリングコースとして近年人気を集まっており、日本最大級の国際サイクリング大会が行われるなど、国内外問わず、多くのサイクリストが訪れるようになってきております。今後、瀬戸田サンセットビーチをメイン会場とした、トライアスロン大会などを開催する予定となり、更なる賑わいづくりに取り組んでいきたいと考えております。

●おわりに

生口島は、全国でも有数の柑橘類の生産地であり、国産レモンの発祥の地とされており、レモン生産量日本一となっています。島内ではレモンを使ったデザートなど人気となっておりますので、ぜひご賞味してください。



リフレッシュ瀬戸内



瀬戸田サンセットビーチ



ビーチを活用したイベント
(海開き 子ども会綱引き大会)



みなとオアシスSea級
グルメ全国大会



国際サイクリング大会

四国

「みなとオアシス八幡浜みなっと」

八幡浜市 産業建設部
水産港湾課 杉原 勝宣

●はじめに

八幡浜港は、四国西端佐田岬半島のつけ根に位置する天然の良港であり、古くから海上交通の基地として栄えてきました。また、天然魚の西日本有数の水揚げ高を誇る八幡浜漁港と隣接しており、水産業とも連携し発展してきた港湾であります。

八幡浜港の海岸線総延長は5.7km(うち海岸保全区域総延長1.5km)と大きな港湾ではありませんが、九州(白杵港、別府港)と

の間にフェリーが1日20往復運航しており、四国の西の玄関口として重要な役割を担っています。

●『みなっと』の整備

中心商店街の衰退や港周辺施設の老朽化により、周辺住民、フェリー利用客、観光客等の来訪者を引きつけることができる施設の整備が課題であったことから、新たに観光案内・まちづくり活動拠点施設「みなと

交流館」、海産物直売所「どーや市場」、産直・物販・飲食施設「アゴラマルシェ」、芝生広場、駐車場などを整備し、平成25年4月『みなとオアシス八幡浜みなっと』をオープンしました。

「どーや市場」では、隣接する魚市場から水揚げされたばかりの新鮮な魚介類を浜値で販売しており、市民の台所としても親しまれ、活気あふれる場内は魚を見ているだけでも楽しいと観光客にも人気です。

「アゴラマルシェ」では、市民のソウルフード八幡浜ちゃんぽんをはじめとするご当地グルメを多数提供しており、市内外の方から親しまれています。

●おわりに

おかげさまで『みなっと』は、オープン以後、平成25年度は約130万人、平成26年度は約100万人の来場者数を記録しています。

年間を通してさまざまなイベントを開催しており、毎年新たなことに取り組んでいます。さらに現在周辺では、フェリーターミナルの再整備事業、大洲・八幡浜自動車道の整備、温泉開発などのプロジェクトが進められていることから、それらとも連携し、今後もさらなる発展を目指していきます。



みなと交流館



どーや市場



アゴラマルシェ



芝生広場

九州

熊本県の海岸概況と整備事業について

熊本県 土木部河川港湾局 港湾課
主任技師 坂田 勉

●海岸概況

熊本県の海岸線延長は約1,100kmの長さを有し、有明海、八代海、天草西の3沿岸に分かれています。

そのうち、有明海は熊本県、福岡県、佐賀県、長崎県の4県に囲まれ、内陸に湾入する細長い形状をした閉鎖性の高い内海です。その地形的な特徴から外海との海水交換は非常に少なく、港奥では最大6mにもおよぶ日本一の干満差を有しており、発達した干潟には多くの魚介類や野鳥などが生息し、水産資源が豊かな海域です。

また、干拓や埋立てによって造成された有明海沿岸は、背後地の地盤高が低く、台風の常襲地帯に位置していることから、過去にも頻繁に高潮が発生しており、海岸の防護機能は地域にとって重要な役割を果たしています。

●海フェスタくまもと

平成27年7月18日～8月2日の16日間にわたり「海フェスタくまもと」が、熊本港をメイン会場として、有明海沿岸の熊本県内7市1町で共同開催され、対岸の島原半島3市にも協力をいただきイベント等が実施されました。

7月23日には、秋篠宮同妃両殿下に「海フェスタくまもと」記念式典・記念祝賀会に御臨席いただき、(同日・その後)ラムサール条約湿地である荒尾干潟(建設海岸：荒尾海岸)を御視察されました。

今年度、梅雨前線豪雨により干潟周辺の海岸に約2,000㎡の流木等の漂着が発生した際には、海岸の景観整備と海岸利用者の安全を確保するため、建設業協会に支援要請を行い、現地漂着物の回収を速やかに実施しております。

●港湾海岸事業

荒尾干潟の北側には荒尾港海岸(荒尾市管理)、南側には長洲港海岸(熊本県管理)があり、荒尾港海岸については既設堤防の老朽化対策に現在取り組んでおります。また、長洲港海岸についても老朽化が進んでおり、計画的な補修が必要となっております。

有明海以外では、八代海、天草西沿岸の県下4港(八代港、三角港、佐敷港、天草港)の港湾海岸で津波・高潮対策や老朽化対策を実施中です。

今後も、海岸保全施設の長寿命化計画の策定をはじめ、県民の人命・財産を守るために必要な老朽化対策や津波・高潮対策を推進していきたいと考えております。



荒尾干潟



海フェスタくまもと



長洲港海岸(漂着物回収)



佐敷港海岸(高潮対策)

沖縄

仲田港海岸 高潮対策事業

沖縄県 土木建築部 海岸防災課

●はじめに

仲田港海岸は、沖縄本島の本部(もとぶ)半島の北、約28kmに位置する、伊是名(いぜな)島の東側に在り、背後には集落や公共施設、伊是名城跡及び番屋体験館等の観光拠点があります。

近年、既設護岸前面の砂浜が減少し、台風襲来時には、護岸を越波した海水が民家等に流れこむ被害が発生し、また、以前見られたウミガメの産卵も、見られなくなりました。

このような中、沖縄県で策定した「沖縄21世紀ビジョン基本計画」において、「自然災害等の防止のため、景観や生態系などの自然

環境に配慮した河川、海岸、砂防、防風、防潮林等の整備を推進する」との方針が定められ、当海岸においては、失われた砂浜の復元により、高潮・波浪に対する防護機能の向上を図り、併せて自然環境や景観にも配慮した整備を行っています。

●事業内容(高潮対策事業)

当海岸においては、高潮対策事業として、護岸の高上げ改良、養浜及び砂の流出を防ぐための突堤の整備を実施しており、これにより、高潮防護機能が確保され、災害に強い地域の創出及び安全・安心な生活環境を形成することができます。また、オカヤドカ

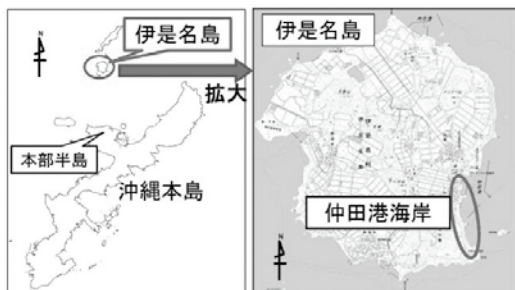
リやヤシガニなどの生物の生息場、ウミガメの産卵場の創出により、豊かな自然環境を復元すると共に、景観の復元、海岸利用の促進が図られます。

平成24年度に事業に着手し、平成27年度に事業完了を予定しています。

●おわりに

地元の方々のみならず、観光客の皆様にも親しみやすい海岸づくりを目指して事業を進めています。

皆様も、沖縄にお越しの際は、ぜひとも、ハブのいない島・伊是名島の仲田港海岸を訪れてみて下さい!!



仲田港海岸 位置図



上空からの写真



整備状況写真

データで見る海岸・防災

①東日本大震災で被災した港湾・海岸の復旧状況

○東日本大震災では八戸港から鹿島港など26港^{※1}が被災しました。その被災報告額は約4,138億円に及んでいます。

○各港に設置された協議会において策定された「産業・物流復興プラン」に基づき、復旧工程計画に定められた(復旧に期間を要する防波堤等を除く)全ての港湾施設について本格復旧を目指します。また、復旧に期間を要する港湾防波堤、海岸保全施設については、工程管理等適切に実施し早期の完了を目指します。

1 (a)港湾の復旧状況(暫定利用可能岸壁数)(平成27年12月末現在)

八戸港以南の水深4.5m以深の公共岸壁(公社含む)が対象。

港名		港格	①震災前 バース数	②暫定利用 可能バース数 ※2	(②/①)	③本復旧済み バース数 ※3	(③/①)	④本復旧工事 着手済みバース数 ※4	(④/①)
1	八戸港	重要	44	44	100%	44	100%	44	100%
2	久慈港	重要	24	24	100%	24	100%	24	100%
3	宮古港	重要	26	26	100%	26	100%	26	100%
4	釜石港	重要	7	7	100%	5	71%	7	100%
5	大船渡港	重要	10	10	100%	10	100%	10	100%
6	仙台塩釜港 (石巻港区)	国際拠点	31	31	100%	27	87%	27	87%
	仙台塩釜港 (塩釜港区)	国際拠点	20	20	100%	11	55%	18	90%
	仙台塩釜港 (仙台港区)	国際拠点	22	22	100%	22	100%	22	100%
7	相馬港	重要	13	13	100%	13	100%	13	100%
8	小名浜港	重要	72	67	93%	64	89%	72	100%
9	茨城港 (日立港区)	重要	18	18	100%	18	100%	18	100%
	茨城港 (常陸那珂港区)	重要	25	25	100%	25	100%	25	100%
	茨城港 (大洗港区)	重要	13	13	100%	13	100%	13	100%
10	鹿島港	重要	18	18	100%	18	100%	18	100%
小計(国際拠点港湾・重要港湾)			343	338	99%	320	93%	337	98%
1	八木港	地方	4	4	100%	4	100%	4	100%
2	小本港	地方	1	1	100%	1	100%	1	100%
3	気仙沼港	地方	6	6	100%	5	83%	6	100%
4	女川港	地方	4	4	100%	2	50%	4	100%
5	久之浜港	地方	1	1	100%	1	100%	1	100%
6	江名港	地方	7	7	100%	7	100%	7	100%
7	中之作港	地方	7	7	100%	7	100%	7	100%
小計(地方港湾)			30	30	100%	27	90%	30	100%
合計			373	368	99%	347	93%	367	98%

※1 上記17港の他、御崎港、雄勝港、金華山港、表浜港、荻浜港、翁島港、川尻港、河原子港、土浦港にて被災し、計26港が被災。

※2 港長(海上保安部)、港湾管理者、地方整備局(東北、関東)の確認により暫定利用が可能と判断された施設。
施設の大部分で復旧工事が必要であり、利用にあたっては、吃水制限や上載荷重制限がかかっている施設もある。

②暫定利用可能バース数には、③本復旧済みバース数も含む。

※3 査定を受けて採択された災害復旧事業が完了したバース数(被害のない施設も含む)。

※4 着手済みは工事契約済みの施設。

(b) 港湾海岸の復旧状況(平成27年12月末現在)

港湾海岸の復旧状況

	地区海岸数	被災地区海岸数(注)				
		うち本復旧 工事着工済	(着工率)	うち本復旧 工事完了	(完了率)	
被災6県計	113	59	53	(90%)	11	(19%)
青森県	34	1	1	(100%)	1	(100%)
岩手県	14	13	12	(92%)	2	(15%)
宮城県	35	32	27	(84%)	2	(6%)
福島県	11	8	8	(100%)	1	(13%)
茨城県	7	3	3	(100%)	3	(100%)
千葉県	12	2	2	(100%)	2	(100%)

(参考1) 海岸全体の復旧状況(農林水産省及び水産庁所管海岸を含む)

	地区海岸数	被災地区海岸数(注)				
		うち本復旧 工事着工済	(着工率)	うち本復旧 工事完了	(完了率)	
被災6県計	983	501	427	(85%)	121	(24%)
青森県	275	7	7	(100%)	7	(100%)
岩手県	120	108	104	(96%)	19	(18%)
宮城県	286	265	200	(75%)	49	(18%)
福島県	109	85	80	(94%)	10	(12%)
茨城県	82	26	26	(100%)	26	(100%)
千葉県	111	10	10	(100%)	10	(100%)

(参考2) 海岸の復旧状況の推移(被災6県計)

	地区海岸数	被災地区海岸数(注)				
		うち本復旧 工事着工済	(着工率)	うち本復旧 工事完了	(完了率)	
平成25.3末時点	983	471	196	(42%)	60	(13%)
平成26.3末時点	983	471	318	(68%)	86	(18%)
平成27.3末時点	983	501	397	(79%)	105	(21%)
平成27.6末時点	983	501	400	(80%)	108	(22%)

(注) 福島県の帰還困難区域は含まれていない

平成26年9月末より、復旧を行わないとした3地区海岸を除外

データで見る海岸・防災

②各地域における東日本大震災以降の想定津波の検討状況

[凡例] ◎:検討結果公表済、○:検討中、()内は公表日または検討開始日、☆:津波防災地域づくり法に基づき設定

地方	地域		L1 津波の検討状況		L2 津波の検討状況	
				想定津波高 (T.P.)		想定津波高 (T.P.)
北海道	北海道	太平洋側	◎ (H25.2)	1.3 ~ 12.8 m ※津波のせり上がり高	◎ (H24.6)	1.1 ~ 34.6 m
		日本海側	○ (H27年度~)		○ (H24年度~) ☆	
		オホーツク海側	—		—	
東北	青森県	太平洋側	◎ (H25.1 検討済) (八戸港公表 H25.3)	2.1 ~ 7.0 m 八戸港内のみ公表	◎ (公表 H27.3) ☆	1.5 ~ 23.5 m
		陸奥湾		非公表	◎ (公表 H27.3) ☆	1.1 ~ 3.7 m
		日本海側		非公表	◎ (公表 H27.3) ☆	1.6 ~ 22.6 m
		秋田県	◎ (H25.9)	3.0 ~ 6.0 m	◎ (H24.12)	9.8 ~ 14.4 m
		山形県	◎ (H27.3)	3.6 ~ 4.5 m	◎ (H24.3)	7.3 ~ 8.8 m
		岩手県	◎ (H23.10)	4.8 ~ 13.7 m	◎ (H23.10)	非公表
		福島県	◎ (H23.10)	2.4 ~ 8.7 m	○ (H23.7 ~) ☆	未公表
		宮城県	◎ (H23.9)	1.5 ~ 13.7 m	◎ (H23.9)	2.4 ~ 24.0 m
関東		茨城県	◎ (H24.8)	3.1 ~ 4.2 m ※各地域海岸の最大水位	◎ (H24.8) ☆	4.1 ~ 14.8 m
	千葉県	東京湾沿岸 千葉東沿岸	◎ (東京湾 H25.3) (千葉東 H25.5)	2.6 ~ 4.9 (東京湾) 1.2 ~ 7.8 (千葉東)	○	
	東京都	東京湾内	設定不要		◎ (H24.4 元禄型関東地震、 東京湾北部地震)	2.6 m
		伊豆 小笠原諸島	◎ (H26.1)	2.5 ~ 6.8 m	◎ (H24.4: 元禄型関東地震) (H25.5: 南海トラフ巨大地震・ 元禄型関東地震)	7.3 ~ 24.5 m
		神奈川県	◎ (H27.1)	1.8 ~ 7.1 m	◎ (H27.3) ☆	3.5 ~ 24.9 m
北陸		新潟県	○ (H25.10 ~)		◎ (H25.12) ※修正版	0.7 ~ 7.3 m
		富山県	—		◎ (H24.3)	0.1 ~ 7.1 m
		石川県	—		◎ (H24.4)	0.5 ~ 18.6 m
		福井県	—		◎ (H24.9)	0.8 ~ 8.7 m
中部		静岡県	◎ (H25.6.27)	1.0 ~ 11.0 m	◎ (H25.6.27) ☆ (H25.11.5 駿河・南海 トラフ側)	1.0 ~ 33.0 m
		愛知県	◎ (H26.11 ~)	2.6 ~ 10.2 m	◎ (H26.11 ~) ☆	2.2 ~ 20.6 m
		三重県	◎ (H26.3 ~)	2.3 ~ 11.7 m	◎ (H27.3) ☆	4.0 ~ 27.0 m

[凡例] ◎:検討結果公表済、○:検討中、()内は公表日または検討開始日、☆:津波防災地域づくり法に基づき設定

地方	地域	L1 津波の検討状況		L2 津波の検討状況		
			想定津波高 (T.P.)		想定津波高 (T.P.)	
近畿	大阪府	○ (H24.11 ~)		○ ☆ (H24.11 ~)		
	兵庫県	○ (H24.6 ~)		◎ (H25.12:大阪湾・淡路) (H26.2:播磨) ○ (H24.4 ~:但馬)	2.0 ~ 8.1	
	和歌山県	◎ (H26.10:東海・東南海・ 南海3連動地震)	~ 9.9 m	◎ ☆ (H25.3)	~ 18.3 m	
	京都府	—		○ (H26.12 ~)		
中国	岡山県	◎ (H26.4.15)	1.9 ~ 3.0 m	◎ ☆ (H25.3 及び H25.7) ※1	2.3 ~ 3.3 m	
	広島県	◎ (H26.9)	2.1 ~ 3.1 m	◎ ☆ (H25.3)	3.1 ~ 4.0 m	
	山口県	瀬戸内海側	◎ (H27.11)	1.6 ~ 2.8 m	◎ ☆ (H25.12)	3.0 ~ 3.8 m
		日本海側	◎ (H27.11)	1.4 ~ 2.5 m	◎ ☆ (H27.3)	2.0 ~ 4.4 m
	鳥取県	○ (H23.7 ~)		○ (H23.7 ~)	3.2 m ~ 7.6 m	
	島根県	○ (H22.11 ~)		○ (H22.11 ~)		
四国	高知県	◎ (H25.11)	2.7 ~ 19.3 m	◎ ☆ (H24.12)	13.0 ~ 34.0 m	
	徳島県	◎ (H25.3)	2.0 ~ 13.1 m	◎ ☆ (H24.10)	2.1 ~ 20.9 m	
	香川県	◎ (H26.3)	2.3 ~ 3.2 m	◎ ☆ (H25.3)	2.8 ~ 3.8 m	
	愛媛県	◎ (H26.6)	2.4 ~ 5.4 m	◎ ☆ (H25.6)	3.1 ~ 21.3 m	
九州	福岡県	○ (H26.3 ~)		◎ (H24.5)	0.5 ~ 2.5 m	
	佐賀県	—		◎ ☆ (H27.7)	2.2 ~ 3.5 m	
	長崎県	○ (H24.4 ~)		◎ ☆ (H26.3)	2 m ~ 7 m	
	熊本県	—		◎ ☆ (H25.3)	2.0 ~ 3.8 m	
	大分県	○ (H25.6 ~)		◎ ☆ (H25.2)	2.7 ~ 13.5 m	
	宮崎県	◎ (H25.12)	2.4 ~ 7.8 m	◎ ☆ (H25.2)	8.8 ~ 16.0 m	
	鹿児島県	◎ (H27.3)	未公表	◎ ☆ (H26.9)	2.2 ~ 12.8 m	
沖縄	沖縄県	○		◎ ☆ (H27.3)	2.8 ~ 34.3 m	

※1:岡山県においては、津波防災地域づくり法に基づいた津波浸水想定を行い、浸水想定図等をH25.3に公表していたが、地域防災計画の見直しを進めるに当たり、新たに国の被害想定に準じて「津波の越流後に堤防等が破壊される」条件での津波浸水想定を行い、地震・津波被害想定をH25.7に公表している。

※ 組織名称を途中で変更している協議会等については設立時期が異なる場合もある。

データで見る海岸・防災

③「港湾の事業継続計画」における全国の検討状況一覧（平成27年12月末現在）

【地域の「港湾の事業継続計画」等】

地域名	協議会等	設立時期	検討状況	策定時期
北海道	道央圏港湾連携による防災機能強化方策検討会	H23.9.7	◎	H24.4
北海道	北海道太平洋側港湾BCP策定検討会	H27.2.16	○	(H27d)
東北	東北広域港湾防災対策協議会	H25.3.5	◎	H27.2
東京湾	港湾BCPによる協働体制構築に関する東京湾航行支援協議会	H21.9.8	◎	H27.3
関東	関東港湾広域防災協議会	H26.3.27	○	(H27d)
北陸	北陸地域における港湾の地震・津波対策協議会	H25.3.8	○	(H28d)
伊勢湾	伊勢湾港湾機能継続計画検討会議	H25.11.27	○	(H27d)
大阪湾	大阪湾港湾機能継続計画推進協議会	H23.9.16	◎	H26.3
広島湾	広島湾連携BCP関係者会議	H22.10.4	◎	H24.2
四国	四国の港湾における地震・津波対策検討会議	H23d	◎	H26.3
九州東岸地域	九州東岸地域の港湾における地震・津波対策検討会議	H23d	◎	H24.7

◎ 策定済み	7件
○ 策定中	4件
－ 準備中	0件
合計	11件

【各港別「港湾の事業継続計画」】

港名	協議会等	設立時期	検討状況	策定時期
室蘭港	室蘭港湾BCP協議会	H27.11.25	○	(H27d)
苫小牧港	苫小牧港湾BCP協議会	H26.7.1	◎	H27.3
石狩湾新港	協議会名称は調整中	(H27d)	－	(H28d)
稚内港	協議会名称は調整中	(H28d)	－	(H28d)
函館港	函館港湾事業継続計画策定協議会（仮称）	(H28d)	－	(H28d)
小樽港	協議会名称は調整中	(H28d)	－	(H28d)
釧路港	釧路港湾BCP協議会	H24.11.28	◎	H26.3.31
留萌港	留萌港湾BCP協議会	H27.8.25	○	(H28d)
十勝港	十勝港湾BCP策定協議会	(H28d)	－	(H28d)
紋別港	協議会名称は調整中	(H28d)	－	(H28d)
網走港	網走港湾BCP協議会（仮称）	(H28d)	－	(H28d)
根室港	根室港湾BCP協議会（仮称）	(H27d)	－	(H28d)
八戸港	八戸港湾機能継続協議会	H25.6.14	◎	H25.3
青森港	青森港湾機能継続協議会	H25.7.29	◎	H26.3
むつ小川原港	むつ小川原港湾機能継続協議会	H27.9.4	○	(H27d)
宮古港	宮古港湾機能継続協議会	H27.2.24	◎	H27.6.30
大船渡港	大船渡港湾機能継続協議会	H27.2.26	◎	H27.6.30
久慈港	久慈港湾機能継続協議会	H27.2.23	◎	H27.6.30
釜石港	釜石港湾機能継続協議会	H25.8.2	◎	H27.6.30
仙台塩釜港	仙台塩釜港湾機能継続協議会	H25.7.23	◎	H27.3
秋田港	秋田港湾機能継続協議会	H25.5.29	◎	H26.10
船川港	船川港湾機能継続協議会	H25.5.29	◎	H26.10
能代港	能代港湾機能継続協議会	H25.5.29	◎	H26.10
酒田港	酒田港湾機能継続協議会	H25.5.28	◎	H27.3
小名浜港	小名浜港湾機能継続協議会	H25.7.24	◎	H26.11
相馬港	相馬港湾機能継続協議会	H27.3.3	○	(H27d)
茨城港	港湾BCPによる協働体制構築に関する茨城港連絡協議会	H24.7.26	○	(H27d)
鹿島港	港湾BCPによる協働体制構築に関する鹿島港連絡協議会	H24.7.27	○	(H27d)
千葉港	千葉港BCP連絡協議会	H24.10.10	◎	H26.6.9
木更津港	木更津港BCP連絡協議会	H25.2.27	◎	H26.6.9
東京港	港湾BCPによる協働体制構築に関する東京港連絡協議会	H24.5.18	◎	H25.3.4
横浜港	港湾BCPによる協働体制構築に関する横浜港連絡協議会	H21.9.8	◎	H27.3.23
川崎港	港湾BCPによる協働体制構築に関する川崎港連絡協議会	H23.2.21	◎	H27.3.24
横須賀港	港湾BCPによる協働体制構築に関する横須賀港連絡協議会	H24.3.30	◎	H27.3.19
新潟港	新潟港湾BCP協議会	H25.3.15	◎	H26.3.25
両津港	佐渡地域港湾BCP協議会	H25.10.25	◎	H26.3.20
小木港	佐渡地域港湾BCP協議会	H25.10.25	◎	H26.3.20
直江津港	直江津港湾BCP協議会	H25.11.29	◎	H27.2.27
伏木富山港	伏木富山港災害時における官民連携協議会	H25.2.25	◎	H26.12.19
七尾港	七尾港災害時連携協議会	H25.3.27	◎	H27.3.31
金沢港	金沢港災害時連携協議会	H24.7.2	◎	H26.3.31
敦賀港	事業継続検討会	H25.3.19	○	(H27d)
清水港	清水港防災対策連絡協議会	H25.7.8	◎	H27.2
田子の浦港	田子の浦港防災対策連絡協議会	H25.9.24	◎	H26.3
御前崎港	御前崎港みなと機能継続計画策定協議会	H26.1.23	◎	H26.7
名古屋港	名古屋港BCP協議会	H27.3.25	◎	H27.6.1
衣浦港	衣浦港BCP協議会	H27.3.20	◎	H27.3.20
三河港	三河港BCP協議会	H27.3.20	◎	H27.3.20
四日市港	四日市港湾機能継続計画協議会	H27.10.8	◎	H27.10.8
津松阪港	津松阪港湾機能継続計画協議会	H27.10.8	◎	H27.10.8
尾鷲港	尾鷲港湾機能継続計画作業部会（仮称）	(H27d)	－	(H28d)
舞鶴港	京都舞鶴港湾BCP協議会	H27.7.9	○	(H28d)
大阪港	大阪港BCP協議会	H27.3.25	○	(H27d)

堺 泉 北 港	堺泉北港湾事業継続計画協議会	H27.9.28	○	(H27d)
阪 南 港	阪南港湾事業継続計画協議会	H27.9.28	○	(H27d)
神 戸 港	神戸港湾 BCP 協議会 (仮称)	H27.11.5	○	(H27d)
姫 路 港	姫路港湾 BCP 協議会 (仮称)	(H28d)	—	(H28d)
尼崎西宮芦屋港	尼崎西宮芦屋港湾 BCP 協議会	H27.12.11	○	(H27d)
東 播 磨 港	東播磨港湾 BCP 協議会 (仮称)	(H28d)	—	(H28d)
和歌山下津港	和歌山下津港湾機能継続協議会	H27.8.5	○	(H27d)
日 高 港	日高港湾機能継続協議会 (仮称)	(H28d)	—	(H28d)
鳥 取 港	鳥取港 BCP 連絡協議会	H27.5.15	○	(H28d)
境 港	境港 BCP 連絡協議会	H27.12.7	○	(H27d)
浜 田 港	浜田港湾 BCP 協議会 (仮称)	(H27d)	—	(H28d)
三 隅 港	三隅港湾 BCP 協議会 (仮称)	(H27d)	—	(H28d)
西 郷 港	西郷港湾 BCP 協議会 (仮称)	(H27d)	—	(H28d)
岡 山 港	岡山港 BCP 協議会	H27.12.24	○	(H28d)
宇 野 港	宇野港 BCP 協議会	H27.11.19	○	(H28d)
水 島 港	水島港 BCP 協議会	H27.12.22	○	(H28d)
福 山 港	福山港湾 BCP 協議会 (仮称)	(H28d)	—	(H28d)
尾道糸崎港	尾道糸崎港湾 BCP 協議会 (仮称)	(H28d)	—	(H28d)
広 島 港	広島港湾 BCP 協議会 (仮称)	(H27d)	—	(H28d)
呉 港	呉港湾 BCP 協議会 (仮称)	(H27d)	—	(H28d)
岩 国 港	岩国港事業継続計画協議会	H27.11.11	○	(H28d)
徳山下松港	徳山下松港事業継続計画協議会	H27.12.21	○	(H28d)
三田尻中関港	三田尻中関港事業継続計画協議会	H27.11.26	○	(H28d)
宇 部 港	宇部港・小野田港 BCP 協議会	H27.12.17	○	(H28d)
小 野 田 港	宇部港・小野田港 BCP 協議会	H27.12.17	○	(H28d)
徳島小松島港	大規模災害時における徳島小松島港の機能継続協議会	H24.10.30	◎	H26.3
橘 港	大規模災害時における橘港の機能継続計画検討会	H26.12.8	○	(H27d)
坂 出 港	坂出港関係者会議	H27.12.2	○	(H28d)
高 松 港	高松港連絡協議会	H22.2.1	◎	H23.9
宇 和 島 港	協議会名称は調整中	(H27d)	—	(H28d)
松 山 港	災害時松山港活用方策検討関係者会議	H26.1.17	◎	H27.3
東 予 港	協議会名称は調整中	(H28d)	—	(H28d)
三島川之江港	協議会名称は調整中	(H28d)	—	(H28d)
今 治 港	協議会名称は調整中	(H28d)	—	(H28d)
新 居 浜 港	協議会名称は調整中	(H27d)	—	(H28d)
高 知 港	高知港機能継続連絡協議会	H23.10.31	◎	H25.2
須 崎 港	須崎港機能継続連絡協議会	H25.9.5	◎	H26.3
宿 毛 湾 港	宿毛湾港機能継続連絡協議会	H25.12.2	◎	H27.3
下 関 港	下関港事業継続推進協議会	H27.12.2	○	(H27d)
北 九 州 港	北九州港事業継続推進連絡会	H27.3.27	◎	H27.3
博 多 港	博多港事業継続推進連絡会 (仮称)	(H28d)	—	(H28d)
苅 田 港	苅田港事業継続推進連絡会 (仮称)	(H28d)	—	(H28d)
三 池 港	三池港事業継続推進連絡会 (仮称)	(H27d)	—	(H28d)
唐 津 港	唐津港事業継続推進連絡会 (仮称)	(H28d)	—	(H28d)
伊 万 里 港	伊万里港事業継続推進連絡会 (仮称)	(H28d)	—	(H28d)
佐 世 保 港	佐世保港事業継続推進連絡会 (仮称)	(H28d)	—	(H28d)
長 崎 港	長崎港事業継続推進連絡会 (仮称)	(H27d)	—	(H28d)
福 江 港	福江港事業継続推進連絡会 (仮称)	(H27d)	—	(H28d)
郷ノ浦港	郷ノ浦港事業継続推進連絡会 (仮称)	(H28d)	—	(H28d)
厳 原 港	厳原港事業継続推進連絡会 (仮称)	(H28d)	—	(H28d)
熊 本 港	熊本港事業継続推進連絡会 (仮称)	(H27d)	—	(H28d)
三 角 港	三角港事業継続推進連絡会 (仮称)	(H27d)	—	(H28d)
八 代 港	八代港事業継続推進連絡会 (仮称)	(H27d)	—	(H28d)
中 津 港	中津港湾 BCP 連絡協議会	H27.3.11	◎	H27.3
別 府 港	別府港湾 BCP 連絡協議会	H27.8.18	◎	H27.8.18
大 分 港	大分港湾 BCP 連絡協議会	H26.5.22	◎	H26.10
津 久 見 港	津久見港湾 BCP 連絡協議会	H27.2.10	◎	H27.2
佐 伯 港	佐伯港湾 BCP 連絡協議会	H27.1.27	◎	H27.1
細 島 港	細島港湾事業継続推進協議会	H25.1.25	◎	H25.3
宮 崎 港	宮崎港湾事業継続推進協議会	H25.8.30	◎	H25.11
油 津 港	油津港湾事業継続推進協議会	H25.11.18	◎	H26.2
鹿 児 島 港	鹿児島港湾事業継続推進協議会 (仮称)	(H27d)	—	(H28d)
志 布 志 港	志布志港湾 BCP 策定検討会	H27.3.11	◎	H27.6.15
川 内 港	川内港湾事業継続推進協議会 (仮称)	(H27d)	—	(H27d)
名 瀬 港	名瀬港湾事業継続推進協議会 (仮称)	(H27d)	—	(H27d)
西 之 表 港	西之表港湾事業継続推進協議会 (仮称)	(H27d)	—	(H27d)
那 覇 港	那覇港湾 BCP 協議会 (仮称)	(H27d)	—	(H28d)
平 良 港	平良港湾 BCP 連絡協議会 (仮称)	(H27d)	—	(H27d)
石 垣 港	石垣港湾 BCP 連絡協議会 (仮称)	(H28d)	—	(H28d)
運 天 港	運天港湾 BCP 連絡協議会 (仮称)	(H27d)	—	(H28d)
金 武 湾 港	金武湾港湾 BCP 連絡協議会 (仮称)	(H27d)	—	(H28d)
中 城 湾 港	中城湾港湾 BCP 連絡協議会 (仮称)	(H27d)	—	(H28d)

◎ 策定済み	51 港
○ 策定中	27 港
— 準備中	47 港
合 計	125 港

データで見る海岸・防災

④ 港湾海岸における水門・陸閘等の状況（平成27年12月末現在）

○津波・高潮等の災害が発生した際に、水門・陸閘等の現場操作員の安全を確保しつつ確実に閉鎖するため、操作規則に基づく操作・退避ルールの徹底や統廃合、常時閉鎖、自動化・遠隔操作化の取組を進めています。

○港湾海岸では、堤防や護岸、胸壁の前面の港湾等を利用する車両や人の通行のために多くの陸閘が設置されています。

○現在、各海岸管理者において、水門・陸閘等の効果的な管理運用体制の構築を進めています。

地方	都道府県	水門・陸閘等の施設総数				これまでに統廃合した施設数
			自動化・遠隔操作化等の施設 ^{注1}	現場で操作を伴う施設		
					常時閉鎖	
北海道	北海道	158	10	148	65	6
東北	青森県	30	0	30	26	0
	岩手県	15	6	9	9	23
	宮城県	130	2	128	31	0
	秋田県	—	—	—	—	—
	山形県	—	—	—	—	—
	福島県	—	—	—	—	—
関東	茨城県	—	—	—	—	—
	千葉県	104	19	85	23	0
	東京都	64	15	49	10	13
	神奈川県	64	1	63	6	0
北陸	新潟県	10	0	10	10	0
	富山県	—	—	—	—	—
	石川県	54	0	54	54	1
	福井県	—	—	—	—	—
中部	静岡県	195	45	150	71	4
	愛知県	333	20	313	52	29
	三重県	1,103	24	1,079	60	11
	津松阪港海岸（直轄）	1	0	1	0	0
近畿	京都府	2	0	2	1	0
	大阪府	433	11	422	48	3
	兵庫県	1,068	44	1,024	166	0
	和歌山県	332	25	307	80	50
	和歌山下津港海岸（直轄）	1	0	1	1	0

地方	都道府県	水門・陸閘等の施設総数				これまでに 統廃合した 施設数
			自動化・ 遠隔操作化等 の施設 ^{注1}	現場で操作を伴う施設		
					常時閉鎖	
中国	鳥取県	28	0	28	27	0
	島根県	2	0	2	1	0
	岡山県	350	0	350	60	2
	広島県	1,837	6	1,831	65	37
	広島港海岸(直轄)	96	0	96	10	0
	山口県	1,258	7	1,251	143	23
	下関港海岸(直轄)	1	0	1	1	0
四国	徳島県	451	65	386	144	47
	撫養港海岸(直轄)	14	0	14	8	6
	香川県	1,274	0	1,274	38	27
	愛媛県	491	51	440	231	1
	高知県	381	19	362	23	146
九州	福岡県	51	3	48	10	10
	佐賀県	69	22	47	8	0
	長崎県	987	16	971	11	104
	熊本県	187	121	66	10	0
	大分県	326	55	271	84	3
	宮崎県	45	0	45	4	0
	鹿児島県	74	4	70	8	0
沖縄	沖縄県	38	1	37	0	0
合計		11,944	592	11,352	1,579	540

注1:「自動化・遠隔操作化等の施設」は、自動化、遠隔操作化及びフラップゲートの施設

| 編 | 集 | 後 | 記 |

今月号では、毎年恒例のフォトコンテストの入選作品を掲載しました。どの作品も港や海岸の風景がドラマティックに切り取られ、それぞれに港の美しさや魅力が伝わってきます。周りを海に囲まれ、たくさんの港を有する日本だからこそ、このように様々な港の顔を見ることができるのではないかと思います。私も、まだ見たことのない港の顔を見に出かけたくなりました。

さて、この冬、特に1月初旬まではエルニーニョ現象の影響で記録的な暖冬だったようです。暖かい冬は過ごしやすく助かりますが、やはり冬は冬らしく、夏は夏らしく、四季をはっきりと感じたいものです。地球温暖化が進むと、日本の四季が失われていくと言われており、今後の温暖化の進行による影響が懸念されます。

昨年末に行われたCOP21では、2020年以降の地球温暖化対策の枠組みが決められましたが、温室効果ガスの削減に向けて、小さなことでも自分のできることから実践しなければ、と地球環境について考えさせられた冬となりました。



原稿募集のお知らせ

本誌では、読者相互の交流・情報交換を図るため、読者の皆様からの投稿コーナーを設けています。採用させていただいた方には薄謝、掲載誌を差し上げます(応募者多数の場合は、すべて掲載できないこともあります)。皆様のご応募、お待ちしております。

■コラム「私と海岸」(毎号2名程度掲載予定)

ビーチ・海岸に関わる趣味の話、体験談、失敗談、おもしろ話、身近なこと、旅行話等、なんでも結構ですので、気軽にご投稿ください。

- ①文字数:1,000~1,500字程度(本誌1ページ分) ②テーマに沿ったお写真2~3枚程度

■「TOPICS」

「『波となぎさ』に掲載された活動の“その後”をお知らせしたい」、「今、こんな取り組みをしています」——そうした情報の原稿をお待ちしています。

- ①文字数:1,500字程度(本誌1ページ分) ②テーマに沿ったお写真、図表2~4枚程度

■「ビーチライフ」

皆様の「ビーチライフ」に関するさまざまな活動や体験についての原稿を募集します。

- ①文字数:4,000~6,000字程度(本誌2ページ分) ②テーマに沿ったお写真、図表3~7枚程度

■原稿送付先：郵送、FAX、メールにて承ります。

原稿形式は、データ、原稿用紙いずれも承ります。原稿送付の際には後日編集部からご連絡させていただきますので、ご連絡先等を必ず明記してください。

- ①郵送先:〒107-0052 東京都港区赤坂3-3-5 住友生命山王ビル8階 日本港湾協会内 港湾海岸防災協議会
「波となぎさ」編集担当宛
②FAX:03-3505-5400
③e-mail:naminagi@tbss.co.jp

※原稿に関するお問い合わせは上記連絡先③へメールにてお問い合わせください。



発行 平成28年2月28日
発行所 港湾海岸防災協議会
〒107-0052 東京都港区赤坂3-3-5 住友生命山王ビル8階
TEL. 03-5549-9575 (代表)
発行兼編集者 花澤 功
印刷所 株式会社 TBS サービス
〒107-8482 東京都港区赤坂5-3-6
TEL. 03-3505-7148

本誌の購読については、上記発行所にお問い合わせください。

その先の向こうへ

GOING FURTHER

1896年、広島県呉市にて創業した当社は、
進取気鋭の精神と先端の建設技術をもって社会に貢献し、
社会とともに成長してきました。
新たなフィールドへ常に挑戦し続ける心は、
いまでも当社のDNAに引き継がれています。
時代が変わっても変わらないチャレンジスピリットと、
時代の変化に応じた柔軟な自己革新力。
現状に甘んじることなく、一步一步着実に前に進む。
その先の向こうへ…五洋建設

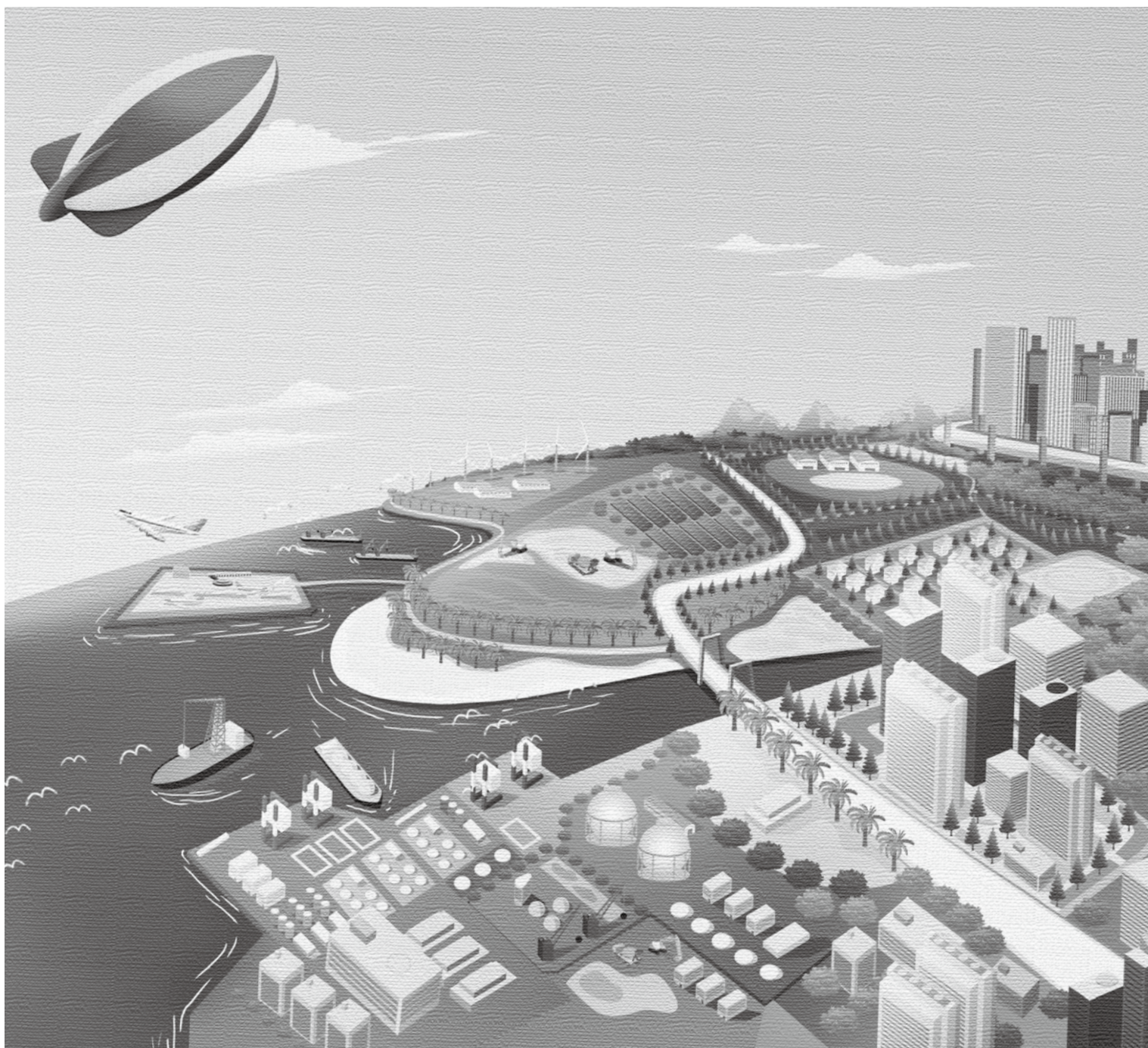
人と地球にあたたかな技術、 ハートテクノロジー。

海の息吹、大地の鼓動、そして都市の活気。

地球の自然と快適な生活の調和こそ、私たちの願いです。

人にあたたかな技術を追求し、夢を確かなカタチに育て、

感動の明日を築いていきます。



〒135-0064 東京都江東区青海二丁目4番24号
Tel. 03-6361-5450
<http://www.toyo-const.co.jp>

こころを刻む。



私たちの暮らしている社会は
少しずつ変化し、成長しています。
若築建設は、しっかりと今を見つめながら、
人のこころを刻む企業として、
一步一步着実に歩み続けます。



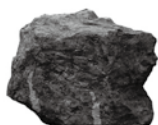
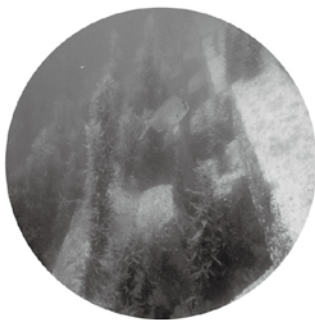
豊かな未来へ 技術のメッセージ

若築建設

〒153-0064 東京都目黒区下目黒 2-23-18
TEL. 03-3492-0271
FAX. 03-3490-1019

技術と信頼で未来を創る

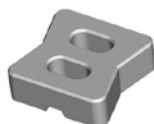
長年にわたって培ってきた技術と信頼によって
障害から国土を、そして人々の生活を護り
安全で住み良い未来を創ります



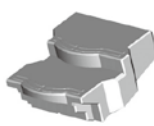
かんらん岩



バラクロス



ロウタスユニ

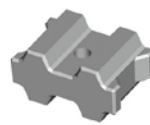


アゴスW

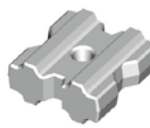


六脚ブロック

国土保全
環境創造



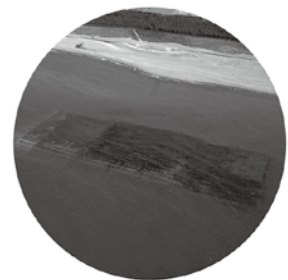
ビーハイブ



ビーハイブS



トライアン



技研興業株式会社

<http://www.gikenko.co.jp/>

本社

東京都杉並区阿佐谷南三丁目7番2号

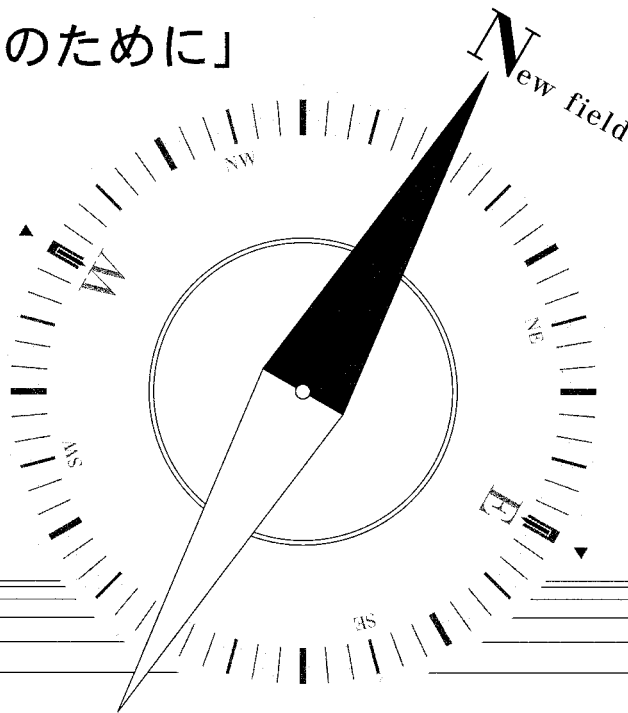
TEL 03-3398-8521

FAX 03-3398-8553

針路は、
「安全・安心な生活環境のために」

不動テトラグループは、
独自の技術と創意工夫で、
豊かで安全な環境づくりに貢献しています。

その新しいフィールドは、
海の底から山の上まで拡がり
災害に強い国土づくり、
安心して暮らせる社会基盤の整備に
お応えします。



株式会社 不動テトラ

東京本社 〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町7-2 TEL.(03)5644-8500
大阪本社 〒541-0047 大阪市中央区淡路町2-2-14 TEL.(06)6201-9203

<http://www.fudotetra.co.jp>

防波堤消波工 (クリンガー)



緩傾斜護岸 (スカラ)



消波・根固ブロック
クリンガー



根固・被覆・傾斜堤ブロック
ホロースケヤー



護床・根固ブロック
リバーストーン



緩傾斜・階段ブロック
スカラ



菱和コンクリート株式会社

本社 〒112-0012 東京都文京区大塚3-5-9 (住友成泉小石川ビル別館6階)
TEL 03-5981-8691 FAX 03-5981-8692

北海道支店 TEL 011-860-8333 東京支店 TEL 03-5981-8693
東北支店 TEL 022-217-2167 大阪支店 TEL 06-6307-2630
福岡支店 TEL 092-481-7363

自然と人を技術で結ぶ。

株式会社 ニュージェック
<http://www.newjec.co.jp>

○大阪本社
大阪市北区本庄東2-3-20 TEL. 06-6374-4901
○東京本社
東京都江東区亀戸1-5-7 TEL. 03-5628-7201

SHIBATA

海洋開発・港湾整備・防災設備・環境保護のニーズにも対応できる、
防舷材総合メーカーとして体制を完備し、その製品は国内はもちろん、
世界の海洋で人と海とのより良い関係を支えています。



【受衝板付防舷材CSS型】



【浮体式係留索ラバージョイナー】



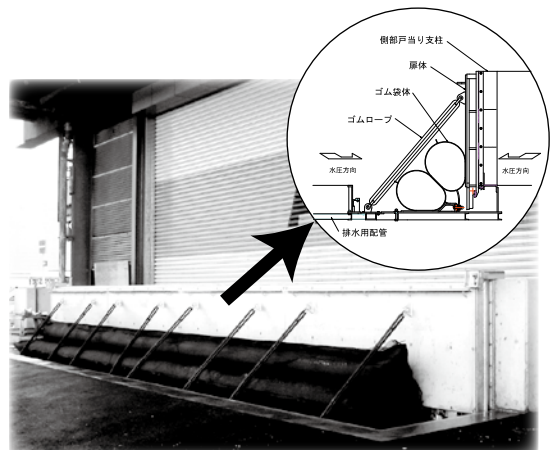
【ケーソン用目地材RF型】

■営業品目■

防舷材(受衝板付・汎用型・洋上接舷用(空気式)・漁港用・作業船用・ドックゲート用他)、緊張係留システム、浮体式係留索(ラバージョイナー)、浮体動揺制御システム(クッションローラー)、バリアー式防衝システム、ケーソン用目地材、汚濁防止膜、透水性土木シート、土木遮水シート、高潮対策用防潮扉等、その他建設土木、環境景観、建築防水、化成系、産業物流、特殊履物等



【遮水シート：管理型廃棄物海面処分場】



【高潮対策用ゴム袋体防潮扉】
(豊国工業(株)製)

～「ゴム+α」の複合素材で、環境・防災・安全に貢献する～

シバタ工業株式会社

本社工場 〒674-0082 兵庫県明石市魚住町中尾1058

東京支社 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21 (JPRカレスト竹橋ビル8F)

神戸支社 〒650-0023 神戸市中央区栄町通4-1-10 (新和ビル5F)

支店・営業所／札幌・仙台・名古屋・福岡・長崎・沖縄

ISO9001&ISO14001認証取得

<http://www.sbt.co.jp/>

TEL.078-946-1515 FAX.078-946-0528

TEL.03-3292-3861 FAX.03-3292-3869

TEL.078-362-6030 FAX.078-362-6094

